

取扱説明書

ラジコン草刈機

YW

YW500RC,A

YW500RC,AE

YANMAR

製品の改造禁止

当製品が使用している電子機器の改造や、製品の使用目的以外の作業や改造はしないでください。改造や目的外の使用をした場合、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また使用目的以外の作業や改造は保証の対象になりませんので、ご注意ください。

安全保障貿易管理規制について

当社製品および関係技術資料を輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供する場合、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の関連規制を受ける場合があります。

機体銘板とエンジン番号

機体銘板とエンジンには、アフターサービスをお受けになるときに必要な情報が記載されています。
機体銘板は、機体前方（図 1）に貼り付けられています。
エンジン番号は、機体上部のエンジン側面（図 2）に打刻されています。

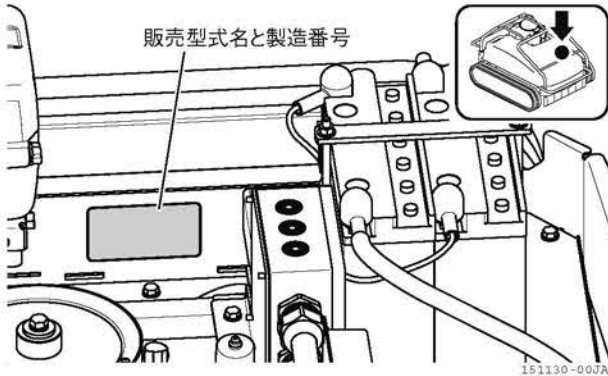


図 1 機体銘板

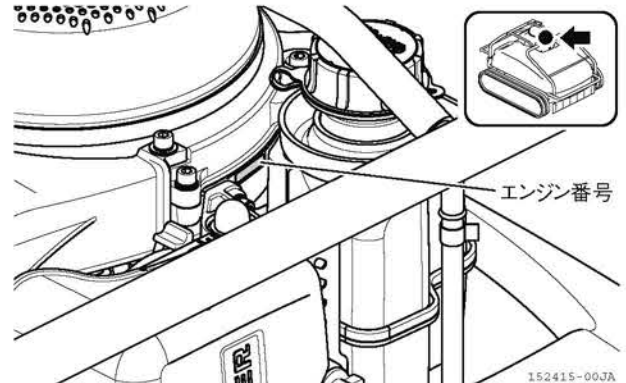


図 2 エンジン番号

販売型式名、製造番号などを記入してください

ラジコン草刈機の製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難の被害にあった場合などに必要となりますので、記載されている販売型式名や製造番号などをつぎの表に記入してください。

販売型式名:	アタッチメント型式名および製造番号:
仕様:	
製造番号:	
エンジン型式:	
エンジン番号:	

- ※ ご購入のラジコン草刈機によっては、該当しない項目もあります。
- ※ アフターサービス、保証については、89ページをご参照ください。

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、ヤンマーラジコン草刈機をお買い上げいただきありがとうございました。この取扱説明書は、ラジコン草刈機の取扱方法と使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになったあとも、この取扱説明書を製品に近接し、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、必ずこの取扱説明書を本製品と共にお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
- 本書 1 ページの記入欄にラジコン草刈機の製造番号、エンジン番号などを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書では、主に YW500RC,A のイラストを使用しています。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されても直ちに修正できないことがあります。
- 本取扱説明書に記載されている部品番号は変更されることがあります。部品、アタッチメント、オプションをご注文される際は本機の販売型式名、製造番号、エンジン番号をお買い上げいただいた特販店、または JA へお伝えください。

このラジコン草刈機は、路上（公道）走行できません。

このラジコン草刈機は、ほ場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けておりません。ほ場まで移動される場合は、トラックなどに載せて運搬してください。

このラジコン草刈機は、日本国内での使用を想定しています。

このラジコン草刈機は、日本国内のみでの使用を想定しており、日本国外での使用は想定しておりません。日本国外で使用した場合や、海外へ輸出した場合は、当社の品質保証の適用範囲外となります。

説明記号の見かた

- | | |
|-------------|---|
| ▲ 危険 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ▲ 警告 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。 |
| ▲ 注意 | その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。 |
| [重要] | 誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。 |
| [参考] | 作業能率をよくしたり、誤った操作をしったりしないための補足説明です。 |
| | 本書の「左」や、「右」という記載は前進方向を見た状態での左側、右側を示します。 |

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場、休耕田、空地、斜面などの草刈作業用の機械としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などはしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。

(詳細は、保証書をご覧ください。)

本製品の使用条件について

本製品は、ほ場、休耕田、空地、斜面などの草刈作業用の機械として設計、製造されています。

表1の条件で使用することにより本来の性能を発揮します。

表1 使用条件

温度	10°C ~ 40°C
傾斜度	左右45度以下 前後30度以下

型式と仕様について

本製品には、つぎの仕様があり、取扱説明書の内容で、型式・仕様によっては該当しない項目もあります。

表2 型式と仕様

型式	仕様	始動方法
YW500RC	A	リコイルスターター式 (アシストスターター方式)
	AE	セルスターター式 リコイルスターター式併用 (アシストスターター方式)

運転操作のシンボルマーク

ラジコン草刈機を安全に能率よく操作、作業していただくために、つぎのシンボルマークをラジコン草刈機および取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。

表3 シンボルマーク

	エンジン停止		混合ガソリン		チョーク
---	--------	---	--------	---	------

目次

総目次

機体銘板とエンジン番号 1

販売型式名、製造番号などを
記入してください..... 1

はじめに 2

1章 必ずお読みください 10

安全な作業をするために 必ずお守りください.....	10
使用する人について.....	11
使用する機械について.....	12
使用する送信機について.....	13
ナイフについて.....	15
作業する前に.....	16
移動やほ場への出し入れをするとき.....	19
運搬時について.....	20
作業するとき.....	22
点検・給油および整備をするとき.....	24
作業後の手入れ・格納するとき.....	27
安全銘板.....	28
安全銘板の貼り付け位置.....	28
安全銘板の手入れについて.....	29

2章 運転のしかた..... 30

各部のはたらきと使いかた.....	30
本機側.....	30
送信機側.....	33
運転前の点検.....	41
点検のしかた.....	41
始動と停止.....	42
始動のしかた.....	42
停止のしかた.....	45
運転操作.....	45
発進・後進のしかた.....	46
変速のしかた.....	46
旋回のしかた.....	46
停車のしかた.....	47

3章 作業のしかた..... 48

作業前の準備.....	48
作業について.....	48
高さ調整のしかた.....	49
ほ場での作業のしかた.....	49

4章 お手入れのしかた..... 52

作業後の手入れのしかた.....	52
洗淨のしかた.....	52
各部のグリス塗布箇所.....	53
点検・整備のしかた.....	54
定期点検・整備の時期について.....	54
定期点検一覧表.....	55
燃料の点検・補給・排出のしかた.....	56
エアクリーナーの掃除のしかた.....	58
ダストカバーの清掃のしかた.....	59
燃料フィルター・タンクの清掃のしかた.....	59
カードパイプおよびボンネットの オープンのしかた.....	60
刈取りクラッチの 点検・調整・ベルト交換のしかた.....	61
ブレーキの点検・調整・交換のしかた.....	62
発電機駆動ベルトの 点検・調整・交換のしかた.....	63
刈高さ調整リンクの点検・調整のしかた.....	64
アクセルワイヤの確認・調整のしかた.....	64
増し締めするところ.....	65
ナイフの点検・交換のしかた.....	66
フロントシート・リアシート・ サイドシートの交換のしかた.....	68
点火プラグの点検・掃除・交換のしかた.....	68
燃料ホース・電気配線の点検のしかた.....	69
クローラの点検・調整・掃除のしかた.....	70
バッテリーの 点検・整備・充電・交換・接続のしかた.....	71
ヒューズ・スローブローヒューズの 交換のしかた.....	73
送信機の充電・バッテリーの交換のしかた.....	75
不調診断のしかた.....	77
エラーコード一覧表.....	81

5章 保管のしかた..... 83

保管するときは.....	83
長期保管するときは（1カ月以上）.....	83
保管のしかた.....	83

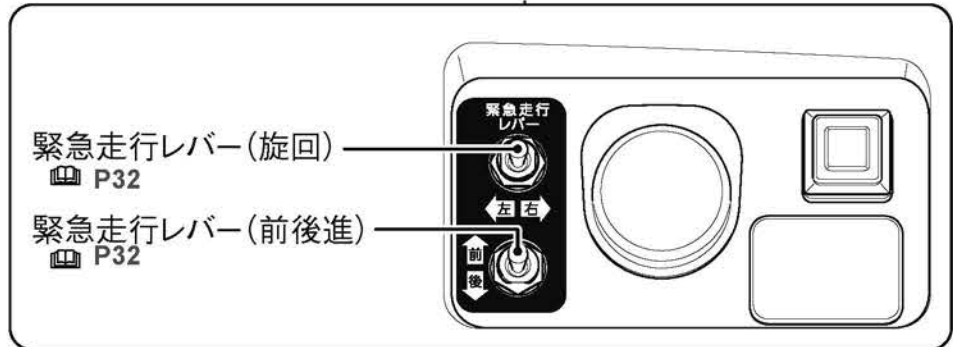
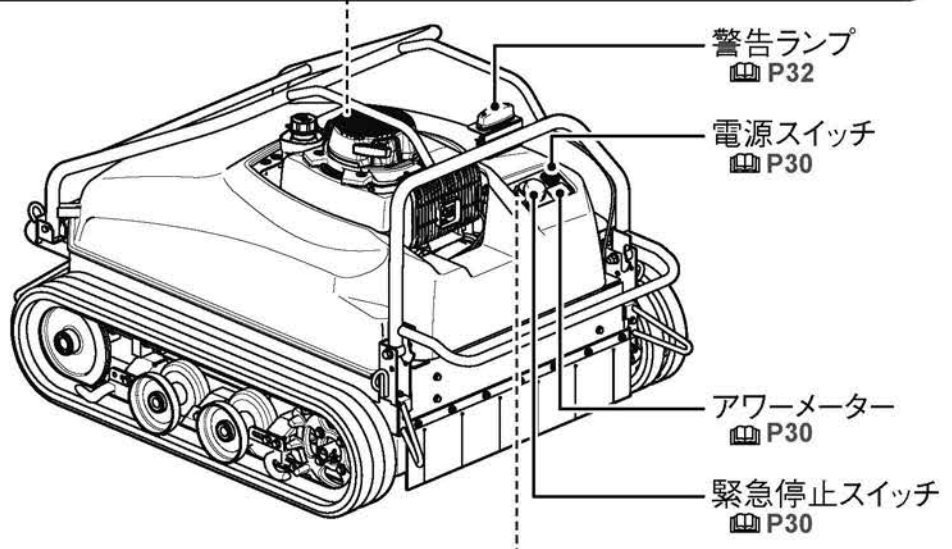
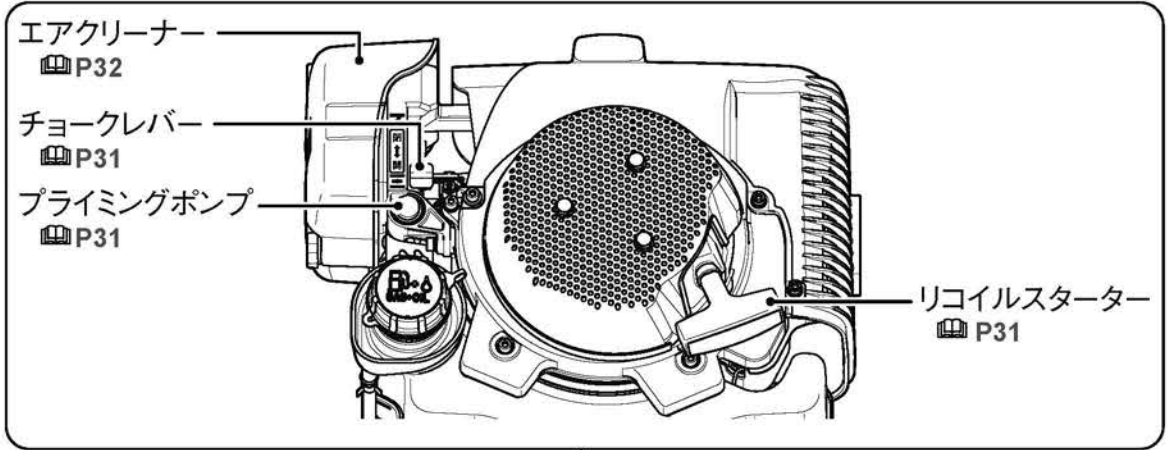
6章 輸送のしかた..... 85

トラックへの積み・降ろしのしかた.....	85
アユミ板について.....	85
トラックの準備.....	85
積みかた.....	85
トラックに積み込んだら.....	86
降ろしかた.....	86

7 章 仕様	87
主要諸元.....	87
8 章 廃棄物の処理について	88
廃棄をするときは.....	88
ラジコン草刈機の廃棄.....	88
ホース類の処理.....	88
ニッケル水素 (Ni-MH) バッテリーの処理.....	88
バッテリーの処理.....	88
9 章 サービスと保証について	89
保証書は大切に保管してください.....	89
アフターサービスをお受けになるときは.....	89
10 章 索引	90
11 章 部品リスト (部品早見表)	91
主要消耗部品.....	91
オプション部品.....	91
12 章 用語解説	92

イラスト目次

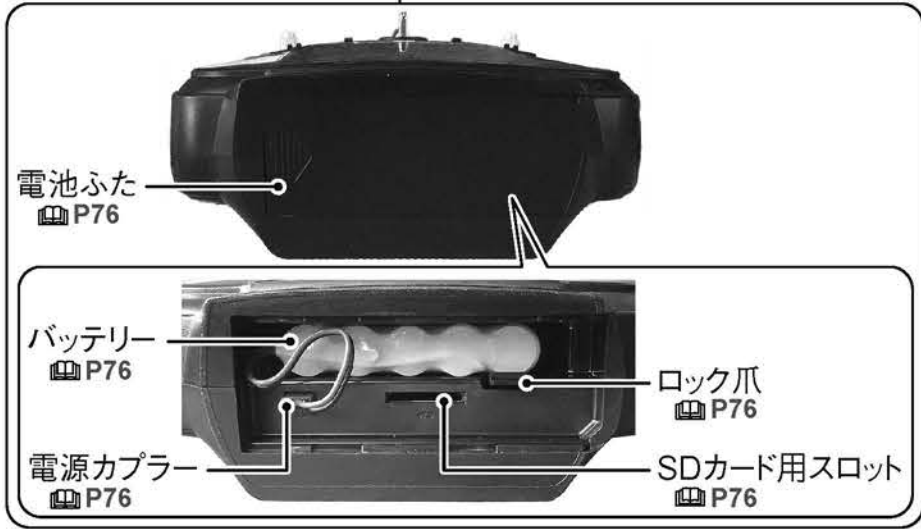
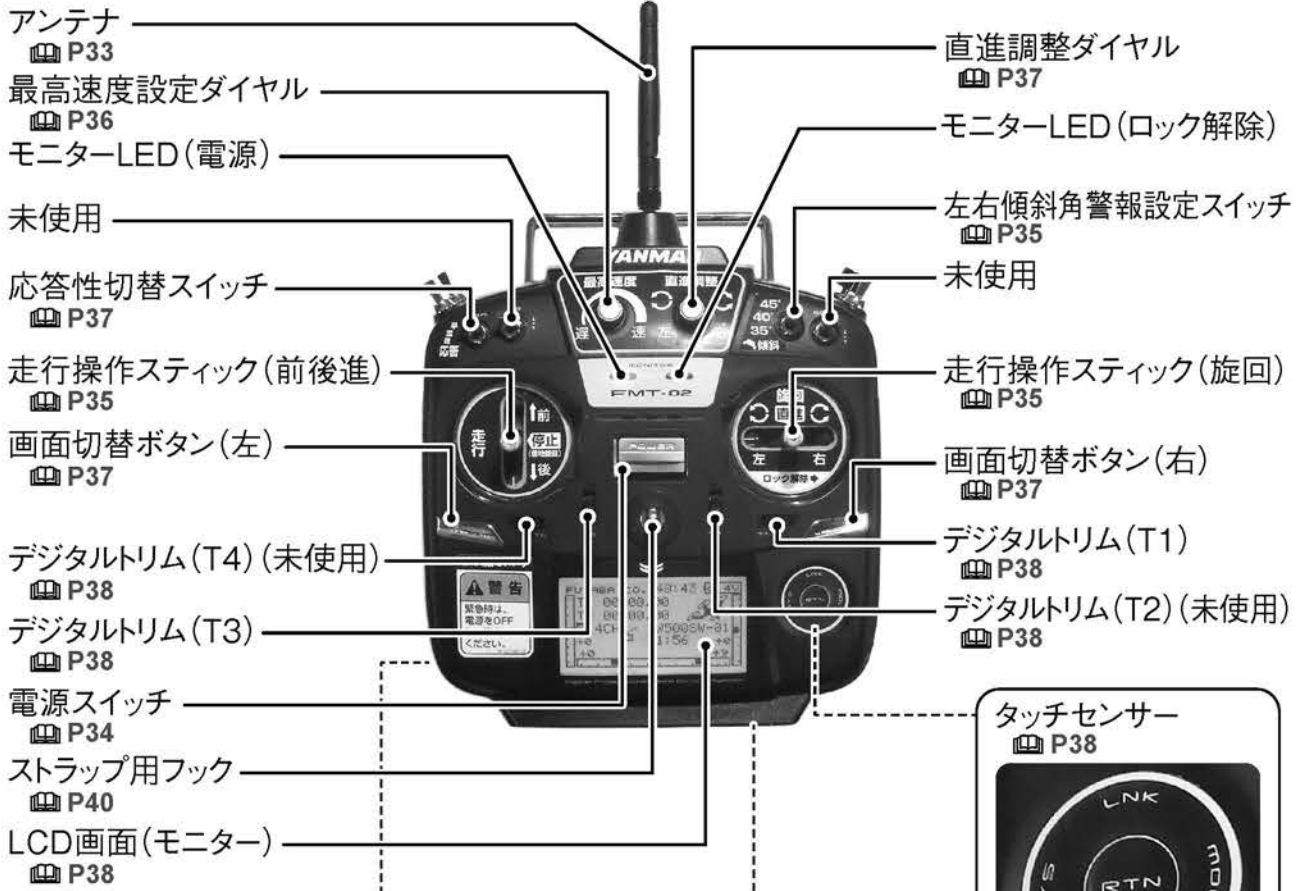
本機



170308-00JA

送信機

目次






1章 必ずお読みください


安全な作業をするために必ずお守りください


- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡事故や傷害事故を引き起こしたり、けがをするおそれがあります。
※ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますがご了承ください。

1

 印付きのマークは、安全上、特に重要な項目です。必ずお守りください。

 **危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。

 **注意** その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。

[重要] 誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考] 作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

必ずお読みください



使用する人について

警告

■ 取扱説明書と機械に貼ってある安全銘板をよく読み、十分に理解してから作業をする

作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。また、どうしても取扱説明書の内容が理解できない場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA へ連絡してください。

■ 体調が悪い人や、操作が未熟な人には作業させない

機械の運転操作には、慣れが必要です。広い平地で練習し、十分に慣れてから作業してください。ただし、つぎの項目にあてはまるときは、操作させないでください。

- ・ 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
- ・ 本書および取扱説明書の内容が理解できない人
- ・ 酒を飲んでいる人
- ・ 視力不足のため、表示内容が読めない人
- ・ 視力不足のため、機械および周辺の状態を視認できない人
- ・ 妊娠中の人
- ・ 睡眠不足の人
- ・ 16才未満の人
- ・ 操縦する体力に自信のない人
- ・ 運転が未熟な人

【守らないと】

誤操作などにより、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業員および補助者は、作業に適した服装をする

スパイク付き安全靴・作業帽・ヘルメット・つなぎ・防護メガネ・すね当てなどの作業に適した服装をしてください。はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。また、音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したり、飛んできた石などが当たったりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 心臓ペースメーカーを装着されているかたへ

この機械は、わずかですが電磁波を発生する場合があります。ご使用については、お医者様を通じてペースメーカーの担当者にお問い合わせください。



警告

■ 機械を他人に貸すときは

取扱説明書、および機械に貼り付けられた安全銘板の内容が理解できない人には、絶対に運転させないでください。事前に取扱方法や安全な使いかたをよく説明し、必ず取扱説明書を読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、機械の破損や、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

使用する機械について

警告

■ 機械を改造しない

機械の改造や、指定以外のアタッチメントを装着しないでください。

【守らないと】

安全性が損なわれ、機械が故障したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 操作銘板が破損しているときは、新しいものと交換する

- ・ 機械には、操作銘板が貼り付けてあります。内容を十分に理解して、その内容に従ってください。
- ・ 操作銘板が汚れで読めなくなった場合は、きれいにふき取り、読めるようにしてください。また、はがれて紛失した場合は、お買い上げいただいた特販店または JA に注文し、新しい銘板を貼り付けてください。

【守らないと】

誤作動によりけがをするおそれがあります。



⚠ 注意**■ 作業前・後は、必ず機械の点検をする**

使用の前と後には、必ず機械の点検をしてください。操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しない場合は、確実に作動するよう調整してください。

【守らないと】

整備不良により、機械が故障したり、けがをするおそれがあります。

■ リコイルスターター部の吸気口の掃除をする

リコイルスターター部の吸気口はエンジンに冷却風を吸い込むところです。きれいに掃除してください。

【守らないと】

エンジンの過熱や出力低下・破損の原因となり、やけどをするおそれがあります。

使用する送信機について**⚠ 危険****■ 損傷・劣化・液漏れなどの異常があるバッテリーや水にぬれているバッテリーを充電しない****■ 充電器を充電器以外の用途で使用しない****■ バッテリーのプラス (+) とマイナス (-) 端子を金属などでショートさせない****■ バッテリーを火中に投下したり、火に近づけない****■ 充電器および電池を水・雨水・海水・ペットの尿などでぬらさない****■ 布団で覆うなど、熱がこもるような状態で充電しない****■ 可燃性ガスが発生する場所で使用しない**

警告

■ 使用前には必ず送信機のテストを行う

操作した通りに機械が動くことを確認してください。

【守らないと】

異常で機械が暴走した場合、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 送信機のバッテリーの充電は、専用充電器を使用する

【守らないと】

異常発熱、破裂などにより、火災事故や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 充電中の充電器やバッテリーに長時間触れない

【守らないと】

低温やけどの原因となり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 異常を見つけたときは、送信機を使用しない

発熱・発煙・異臭・漏液・変色・変形その他の異常を見つけたときは、バッテリーを機器あるいは充電器から外してください。また、充電器は電源プラグを抜いて使用しないでください。

■ バッテリー、充電器は乳幼児の手の届かない場所で使用・保管する

1

必ずお読みください



⚠ 注意**■ 送信機はつぎのような場所には保管しない**

- ・ 40℃以上の暑いところ、－10℃以下の寒いところ
- ・ 直射日光、水、蒸気、熱のあたるところ
- ・ 湿気、振動、ほこりなどの多いところ

【守らないと】

変形や故障の原因となり、思わぬ動きや破損でけがをするおそれがあります。

■ 送信機を長時間使用したあとは、バッテリーが熱くなっているため、すぐに取り出さない

【守らないと】

やけどの原因となり、けがをするおそれがあります。

■ 充電時以外は、専用充電器を電源コンセントから抜いておく**■ コードを無理に曲げたり引っ張ったり、重いものをのせたりしない**

【守らないと】

電源コードが破損し、発火・発熱・感電の原因となります。

ナイフについて**⚠ 警告****■ ナイフの取り付け方を間違えないこと**

ナイフの向きとボルトの向きを間違えないように組付ナットと止めナットはしっかりと締めてください。また古いものは新しいものと交換してください。

【守らないと】

ナイフが外れて飛散するなど、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業する前に

警告

■ 操作レバー類は、必ず点検する

操作した通りに機械が動くことを確認してください。

【守らないと】

正常に動かないことで、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ エンジン始動時は周囲を確認

エンジンを始動する前に、レバーやスイッチの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ エアクリーナーのスポンジとエレメントは必ず取り付けて始動・運転する

【守らないと】

逆火により炎がふき出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ エンジンスイッチの作動を確認する

機械を使用する前に、必ずエンジンスイッチを「切」位置にしてエンジンが停止することを確認してください。エンジンが停止しない場合は、機械の使用を中止し、直ちにお買い上げいただいた特販店またはJAに修理を依頼してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 走行スティックの作動を確認する

機械を使用する前に、走行スティックを放したとき、走行が必ず停止することを確認してください。停止しない場合は、機械の使用を中止し、直ちにお買い上げいただいた特販店またはJAに修理を依頼してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ 刈取りクラッチスイッチの作動を確認する

機械を使用する前に、刈取りクラッチスイッチを「切」にしたとき、ロータリーカッターが必ず停止することを確認してください。停止しない場合は、機械の使用を中止し、直ちにお買い上げいただいた特販店または JA に修理を依頼してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 可燃物のそばで使用しない

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業前にはほ場や周囲の安全を確認してから作業を開始する

周囲に人や動物、車両や設備、建造物などの有形資産がないことを確認してください。また周囲の安全を確認して、ほ場や作業場所内の障害物、側溝、軟弱な路肩など危険な場所や注意が必要な場所には目印などを設けて近寄らないでください。

【守らないと】

傷害事故や機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ 閉め切った屋内などではエンジンを始動しない

エンジンの排出ガスは有害のため、風通しのよい屋外で始動してください。倉庫や車庫などで始動する場合は、ドアや窓を開けて、十分に換気してください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ マフラー・エンジンのごみは取り除く

マフラーや冷却風の吸込口（リコイルスターター部）・エンジン周辺部にわらくず・ごみ・枯草・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。

【守らないと】

火災やオーバーヒートが起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ マフラーの点検を行う

作業前には、マフラーの亀裂・腐食などの異常の有無や、マフラーカバー内の高温部に、わらくずなどの堆積や付着がないことを確認してください。

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1

必ずお読みください

■ 電気部品・コードは必ず点検する

配線が他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業場所に石、針金、ひも、杭、ガラス瓶、空き缶などの異物があれば取り除く

石やその他の異物は事前に取り除き、除去不能な障害物などがある場合には、注意標識、または作業禁止範囲を示す安全柵などを設けたあとで作業を始めてください。また、このような作業場所では安全のために通常よりも高刈りで作業を行ってください。ナイフが欠けたり、石などの異物が飛散し危険です。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで外したカバー類は、必ず取り付けてください。また、破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。

【守らないと】

機械に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意**■ 水を浴びるような条件では使用しない**

雨天時や水たまりなど、機械が水を浴びるような条件での使用は避けてください。

その他気象条件などに留意し、作業実施の判断や装備の選択に十分配慮してください。

【守らないと】

機械の破損や思わぬ動きに巻き込まれたり、滑って転倒したりしてけがをするおそれがあります。

移動やほ場への出し入れをするとき**⚠ 警告****■ 移動時は、刈取部を駆動させない**

【守らないと】

ナイフに接触したり刈取部に巻き込まれたり、石などが飛散したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 移動時は路肩に注意

溝のある農道や傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。

【守らないと】

転倒・転落による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 凹凸やカーブ道路は、低速運転で

坂道や凹凸、カーブの多い道路では、低速で移動してください。

【守らないと】

転倒や転落による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 溝・あぜを渡るときは、アユミ板を使用する

- ・ ほ場に入るとき、溝を渡るときや軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用し、最低速度で移動してください。
- ・ アユミ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。



注意

■ 軟弱地では、スリップ注意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通るときには、低速にしてください。

【守らないと】

高速運転では、スリップや転倒により、けがをするおそれがあります。

1

必ずお読みください



運搬時について

危険

■ アユミ板の上では操作厳禁

- ・ トラックへの積み・降ろしは、アユミ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。
- ・ 進路を変えることは絶対にしないでください。
- ・ アユミ板上がるときはエンジンを停止してください。

【守らないと】

転落などによる死亡事故や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 機械を車に載せて運搬する場合は、 燃料（混合ガソリン）を完全に抜き取ること

ワゴン車や車のトランクルームなどの密閉空間になる状態で機械を運搬する場合は、燃料タンク内の燃料を抜き取ってから積み込んでください。

トラックでの運搬時は、燃料タンク内の混合ガソリンの量を、積み・降ろしに必要な最低量とし、残りの混合ガソリンは別に用意しておいた、法で定められたタンクに移して運搬してください。

【守らないと】

燃料が気化し室内にガソリン臭が充満したり、燃料漏れが発生して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

 **警告****■ 強度・長さ・幅の十分あるアユミ板を使用する**

- 積み・降ろしをするときは、つぎのことを守ってください。
- ・ 平たんで交通の安全な場所でトラックのエンジンを止めてください。
 - ・ 車は動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
 - ・ 使用するアユミ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップのしないものを使用してください。
 - ・ ロープなどを使って人力で荷台へ引き上げたり、人力で持ち上げるなどしないでください。

【守らないと】

転落などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み・降ろしをするときは、平たんで交通の危険のない安全な場所を選ぶ

積み込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて車止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて、転落などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み・降ろし作業中、機械の前には絶対立たない

トラックなどへの積み・降ろし作業中は、機械の直前、直後には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ロープでトラックに確実に固定する

トラックに載せて移動するときは、強度の十分あるロープを使用して、トラックに機械を固定してください。

【守らないと】

荷台から機械が転落したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 機械のクローラがアユミ板の中央を通るようにする**【守らないと】**

転落・転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ 積み・降ろし作業は、十分に気を付けて行う

機械がアユミ板と荷台などの継ぎ目を越えるときは、重心が変わりますので、十分に注意してください。

【守らないと】

転落・転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1

必ずお読みください



作業するとき

警告

■ エンジン始動時は、機械の周辺に人がいないことを確認してから始動する

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 刈取部に足を入れない

【守らないと】

何かの原因で刈取部が動いたときに、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業中は、人や動物を近づけない

作業をするときは、十分周囲に注意をはらい、特に子どもを近寄らせないでください。

作業範囲内（半径 10 m 以内）に人（特に子ども）やペットが入り込まないように、草刈作業中である旨の立て札やロープを張るなどして、作業範囲内に近づけないでください。もし人やペットが近づいた場合は、直ちに作業を中止し、エンジンを停止してください。

また、補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合わせてください。作業中は、お互いに合図しあってください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ハウス内での作業では換気を十分に行う

排出ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告**■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止**

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときや、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落とす
てください。

【守らないと】

機械が破損したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃えているごみの上や、その近くは走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火して火災が起こり、傷害事故を引き
起こすおそれがあります。

■ 操作をしながら、わき見などはしない

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 夜間作業禁止

暗い場所や見通しの悪い場所での作業はしないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ くわえたばこでの作業厳禁

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 物や人をウエイト代わりにしない

バランスウエイト代わりに人や物を乗せないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業するときは、周囲に十分注意する

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**■ 機械から離れるときは、平たんに置き、
エンジンを停止する**

機械から離れるときには、平たんで安定した場所に置き、エ
ンジンを止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、
必ず機械を等高線方向に向けてとめてください。

【守らないと】

機械が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



注意

■ 掃除をするときは、エンジンを停止し、 本機と送信機の電源を「切」にする

【守らないと】

機械が急に動いて、けがをするおそれがあります。

1

点検・給油および整備をするとき

危険

■ 注油・給油・点検はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油・
点検をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすお
それがあります。

必ずお読みください



■ 燃料補給・抜取時は火気厳禁

燃料補給・抜取時は、くわえたばこや裸火照明は、絶対にし
ないでください。

【守らないと】

燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれ
があります。

■ 燃料漏れに注意する

燃料ホースが老化していたり破損していると、燃料漏れを起
こしますので、必ず点検してください。

【守らないと】

火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給・抜取したときは、燃料キャップを確実に閉め、
こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

危険

■ 燃料補給・抜取作業は機械などの金属部分に触れて、体の静電気を放電してから行う

【守らないと】

静電気の放電による火花が、気化した燃料に引火して火災や爆発が起これ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 指定された燃料以外は使用しない

【守らないと】

エンジンが焼損して火災が起これ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料を入れすぎない

燃料は規定量を越えないようにしてください。

【守らないと】

機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれ、引火などによる火災が起これ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 指定されたオイル以外は使用しない

【守らないと】

機械が破損したり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

警告

■ 脱着・作業後は再確認を行う

作業部（ナイフなど）や走行部（クローラなど）の交換や脱着を実施した場合は、指定の場所に指示どおりに装着されているか、しっかりと締め付けられているか、調整されているかを確認してください。

【守らないと】

機械が破損したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 重要部品交換時は締結部品も交換する

作業部（ナイフなど）を新品に交換する場合には、安全のため取付ボルト類もメーカー純正品の新品と交換してください。

【守らないと】

機械が破損したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ ナイフの交換・整備はすべてのナイフを同時に行う

ナイフを交換または裏返す場合は、すべてのナイフを同時に実施してください。

【守らないと】

バランスがくずれ機械が破損したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 点検・整備は、平たんで安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平たんで安定した場所で点検・整備をしてください。

【守らないと】

機械が動いて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 適正工具を使用し、十分に明るい場所で行う

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 排出ガスには十分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 定期的に点検・整備を受ける

1 年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に、燃料ホースや電気配線は 2 年ごとに交換してください。

【守らないと】

整備不良により、けがをするおそれがあります。

■ ベルトの交換、ナイフの交換および巻き付いた草などを取り除くときは、エンジンを停止し、本機と送信機の電源を「切」にする

【守らないと】

機械が動いて、けがをするおそれがあります。



⚠ 注意**■ 点検・整備は、過熱部分が十分冷めてから行う**

マフラーやエンジンなどの過熱部分が、十分に冷めてから点検・整備をしてください。

【守らないと】

やけどやけがをします。おそれがあります。

■ 機械の掃除・点検をするときはエンジンを停止し、本機と送信機の電源を「切」にする

【守らないと】

機械に巻き込まれて、けがをします。おそれがあります。

作業後の手入れ・格納するとき**⚠ 危険****■ シートは機械が十分冷めてからかける**

機械にシートをかける場合は、マフラーやエンジンが十分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告**■ エンジン部や機械に付いたわらや草は取り除く**

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



安全銘板

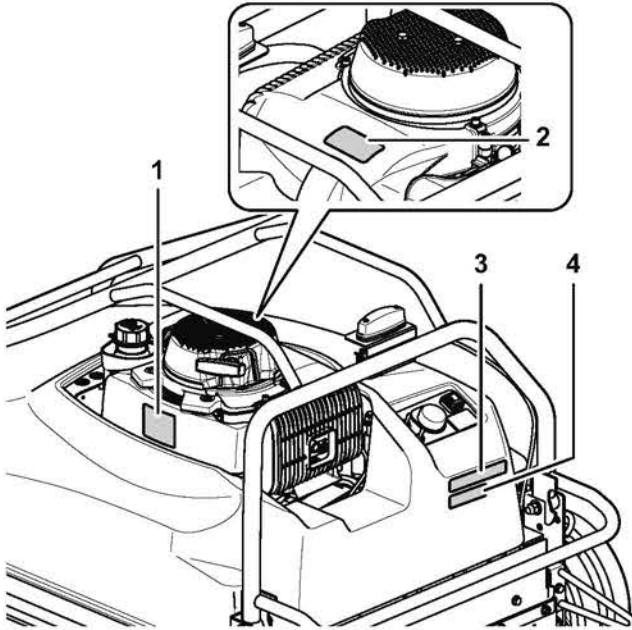
安全銘板の貼り付け位置

安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板には、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。必ず作業をはじめる前に読んでください。常に汚れや破損のないように保ち、もし破損、紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

1

必ずお読みください



170311-00JA

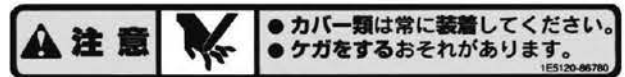
1 1D2260-91100

危険（火気厳禁）



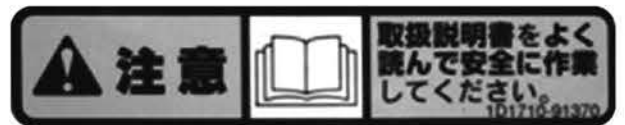
3 1E5120-86780

注意（カバー）



4 1D1710-91370

注意（取扱）



2 1A0124-00600

ラベル



5 1A1025-86170

ラベル（注意）送信機



安全銘板の手入れについて

- ・ 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- ・ 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- ・ 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
安全銘板はお買い上げいただいた特販店、または JA にご注文ください。

1

必ずお読みください



2章 運転のしかた

各部のはたらきと使いかた

本機側

電源スイッチ

本機の電源を「入」「切」する場合に使用します。(図 2-1)

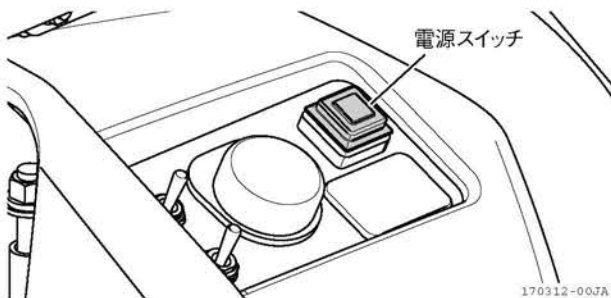


図 2-1

- ・ 押す：
電源が「入」になります。
約 0.5 秒間、ブザーが鳴り、同時に警告ランプが点灯します。アワーメーターが点灯状態になります。
- ・ アワーメーターが点灯中（電源が「入」時）に長押し（1 秒以上）：
電源が「切」になります。
約 1 秒間、警告ランプが点灯し、ブザーが鳴ります。アワーメーターが消灯状態になります。

【重要】

電源が「入」であれば、エンジンが始動していなくてもバッテリーによる走行が可能です。

緊急停止スイッチ

本機を緊急停止するときに使用します。
通常は「運転」位置にしておきます。(図 2-2)

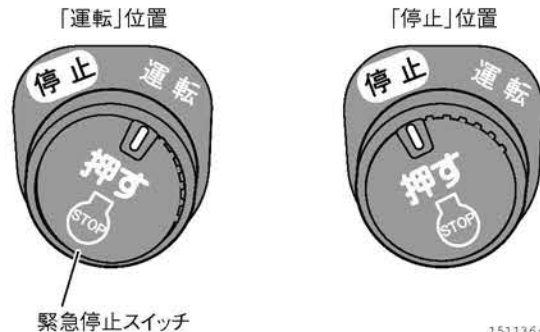


図 2-2

緊急停止スイッチを押すと「停止」位置になり、エンジンと走行が停止します。
ブザーが連続で鳴り、同時に警告ランプが点灯します。

■ エンジン始動時

緊急停止スイッチが「運転」位置であることを確認します。
「停止」位置のときは、押しながら右に回して「運転」位置にします。

【重要】

緊急時には、緊急停止スイッチを押し、エンジンと走行を停止させてください。

アワーメーター

本機の電源が「入」になった時間を 0.1 時間単位で表示します。(図 2-3)

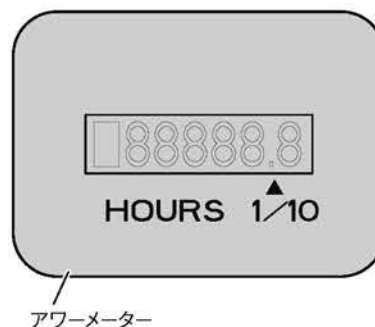
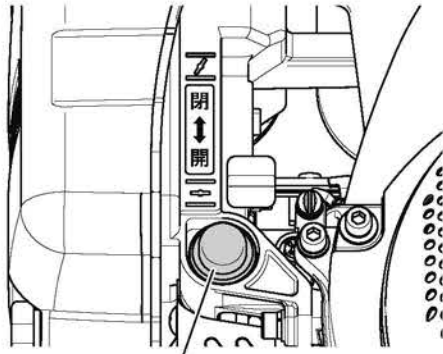


図 2-3

プライミングポンプ

燃料給油後に燃料をキャブレターまで送るのに使
用します。(図 2-4)

透明部に燃料が来て、一定の重さになるまで透明部
を繰り返し押します。(初回 10 回以上)



プライミングポンプ
図 2-4

【重要】

ガス欠時は必ず操作してください。

【参考】

プライミング操作でオーバーフローした燃料は、燃
料タンクに戻ります。押しすぎにはなりませんので
十分操作してください。

一度操作したあと、再始動する場合は操作の必要は
ありません。

チョークレバー

エンジンが冷えている場合、始動するときに使用し
ます。(図 2-5)

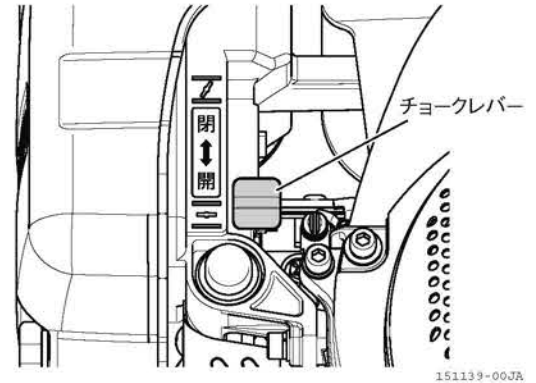
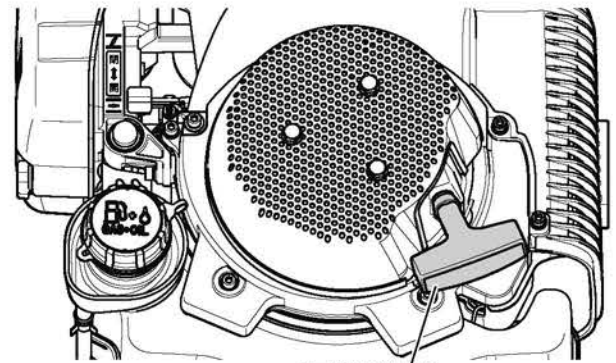


図 2-5

- ・「開」位置：
通常の運転時、作業時の位置です。
エンジンが暖かい場合の始動位置です。
- ・「閉」位置：
エンジンが冷えている場合の始動位置です。

リコイルスターター

エンジンを始動するときに使用します。(図 2-6)



リコイルスターター
図 2-6

エアクリナー

エンジンに供給する空気をきれいにします。
定期的に掃除してください。(図 2-7)

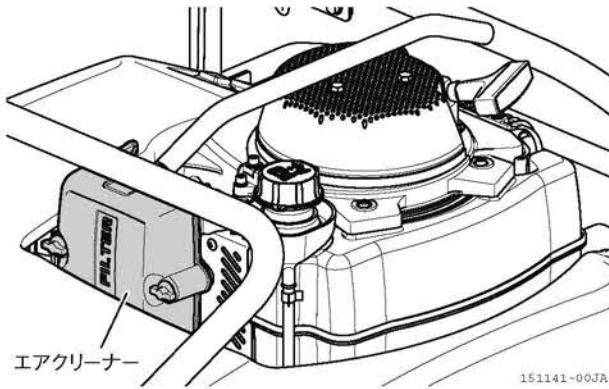


図 2-7

【参考】

エアクリナーの掃除のしかたは 58 ページをご覧ください。

緊急走行レバー (前後進)

送信機が故障したり電池切れしたりした場合、本機を直接動かして移動させるときに使用します。
前後方向に動かします。(図 2-8)
送信機からの信号がないときのみ動作します。



図 2-8

緊急走行レバー (旋回)

送信機が故障したり電池切れしたりした場合、本機を直接動かして移動させるときに使用します。
旋回方向 (左右) に動かします。(図 2-9)
送信機からの信号がないときのみ動作します。

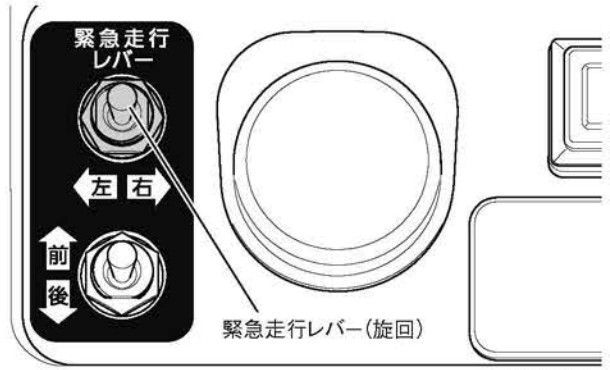


図 2-9

【参考】

停止状態で操作すると、その場で旋回します。

警告ランプ、警告ブザー

電源「入」「切」やエラーが発生した場合に、警告ランプが点滅してオペレーターに知らせます。
(図 2-10)
警告ブザーは警告ランプが点滅したと同時に鳴ります。(81 ページを参照)

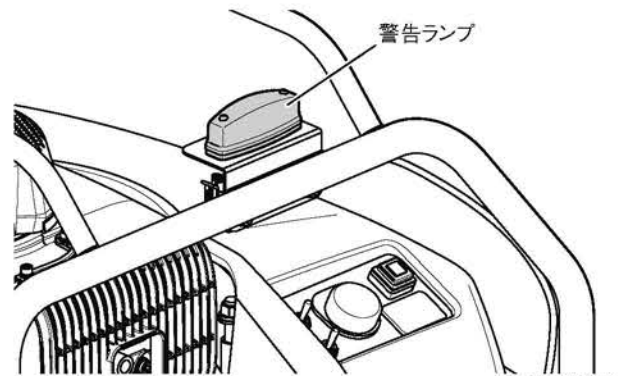


図 2-10

送信機側

送信機は汎用品のため、この機械では使用していないスイッチや機能もあります。

設定が変わることもあるので、取扱説明書で指示されたスイッチ・レバー以外は操作しないでください。

【重要】

- 送信機は水にぬらさないようにしてください。降雨などの場合は、直ちにビニール袋などに入れて防水してください。
送信機は防水、防滴ではありません、水ぬれは故障の原因になります。
- 送信機を塵やほこりの多いところで使用したり、保管したりしないでください。
送信機は防塵ではありません、塵やほこりの多いところで使用すると故障の原因になります。
- 送信機は取扱説明書で操作を指示されている部分以外は触らないでください。
- 一般的な汎用品のため、意図に反して設定がずれ、再設定しないと使用できなくなる場合があります。
再設定はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご依頼ください。

【参考】

送信機の電源を入れ、操作しない状態が一定時間経過すると、「デンゲンスイッチヲオフニシテクダサイ」と表示されます。

アンテナ

アンテナには指向性があります。電波の強さはアンテナの横方向が最大となります。(図 2-11)



図 2-11

できるだけアンテナ先端が機体方向に向かない状態で操作してください。

アンテナは回転と角度の調整ができます。操縦スタイルに合わせて、アンテナの角度を調整してください。(図 2-12)

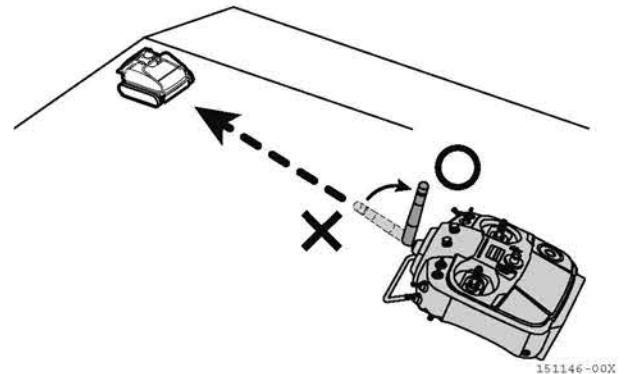


図 2-12

【重要】

アンテナは可動しますが、必要以上の力で可動させないでください。(図 2-13)

アンテナは脱着式ではないため、無理に外さないでください。

守らないと、破損するおそれがあります。

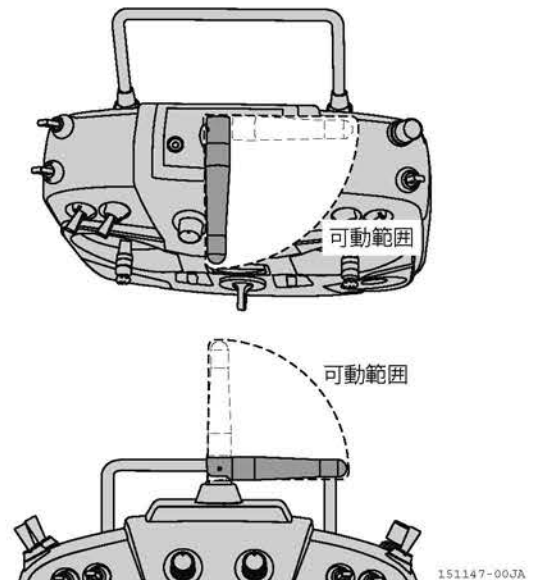


図 2-13

電源スイッチ

送信機の電源の「入」「切」ができます。(図 2-14)



図 2-14

153025-00JA

- ・ 上にスライドさせる：
送信機の電源が「入」になります。
- ・ 下にスライドさせる：
送信機の電源が「切」になります。

電源「入」にすると最初はアラーム音がします。送信機の電源「入」直後は、操作がロックされています。走行操作スティック（旋回）を右に操作すると、ロックが解除されてアラーム音が消えます。(図 2-14)

2
運
転
の
し
か
た

エンジンスイッチ

エンジンの始動、運転、停止の切替ができます。(図 2-15)



図 2-15

151148-00JA

- ・ 「停止」位置：
エンジンが停止します。
- ・ 「始動」位置：
エンジンを始動するときに使用します。
- ・ 「運転」位置：
エンジン回転が高速になります。(作業時の位置)

【重要】

「始動」位置のままでは充電できません。「運転」位置で発電機が回り、充電します。

セルスイッチ (AE 仕様)

エンジンを始動するときに使用します。セルスイッチを押し込むと、エンジンが始動します。(図 2-16)



図 2-16

170316-00JA

走行操作スティック（前後進）

本機を前後に動かすときに使用します。
スティックの倒す量で、走行速度が変わります。
(図 2-17)



走行操作スティック(前後進)

151149-00JA

図 2-17

- ・ 前方に倒す：機体が前進します。
- ・ 「停止」(中央)位置：機体が停止します。
- ・ 後方に倒す：機体が後進します。

走行操作スティック（旋回）

本機を旋回させるときに使用します。(図 2-18)
スティックの倒す量で、旋回具合が変わります。
本機が停止しているときに操作すると、その場で旋回します。
送信機の電源「入」直後はロックがかかっています。
スティックを右に倒してロックを解除します。



走行操作スティック(旋回)

151150-00JA

図 2-18

- ・ 右に倒す：右に旋回します。
- ・ 中央位置：走行時、直進します。
- ・ 左に倒す：左に旋回します。

左右傾斜角警報設定スイッチ

警報(ランプ点滅とブザー)を出す角度が設定できます。(図 2-19)



図 2-19

- ・ 「45°」位置：
本機の傾きが左右45度を超えると警報を出します。
- ・ 「40°」位置：
本機の傾きが左右40度を超えると警報を出します。
- ・ 「35°」位置：
本機の傾きが左右35度を超えると警報を出します。

警報が出ると本機の走行が停止します。
走行操作スティックを一旦「停止」位置にして、再度操作すると動きます。
設定角度を越えていると、走行速度の上限が 1/2 になります。

【参考】

前後傾斜角は 30 度を越えると警報が出ます。

刈取りクラッチスイッチ

刈取りクラッチの「入」「切」ができます。(図 2-20)

刈取りクラッチスイッチ



151152-00JA

図 2-20

- ・「入」位置：刈取りクラッチが「入」になります。
- ・「切」位置：刈取りクラッチが「切」になります。

【参考】

- エンジンスイッチが「運転」位置でないとロータリーカッターは回りません。
- エンジンスイッチが「運転」位置、刈取りクラッチスイッチが「入」で、ロータリーカッターが回転していない場合は警報が出ます。
- エンジンスイッチを「運転」位置にして、ロータリーカッターが一定回転以上になると警報は解除されます。
- エンジンスイッチが「運転」位置、刈取りクラッチスイッチが「入」でロータリーカッターの回転が 5 秒以内に一定回転にならないとエンジンがアイドリングになります。(51 ページの「セーフティー制御機能」を参照)
エンジンを停止して、ベルトの張りやカッター部への巻付きなどが無いことを確認し、回転が上がらない原因を取り除いてから再始動してください。

刈高さスイッチ

刈り取ったあとの草の高さを 3 段階に調整できます。(図 2-21)



刈高さスイッチ

151153-00JA

図 2-21

- ・「低」位置：刈高さ約 4.0 cm
- ・「中」位置：刈高さ約 5.5 cm
- ・「高」位置：刈高さ約 7.0 cm

【参考】

- 刈高さは目安です。条件によって、高くなる時もあり、低くなる時もあります。
- 作業後草丈は 3.0 ~ 8.0 cm です。

最高速度設定ダイヤル

走行操作スティックを最大に倒したときの速度を設定できます。(図 2-22)



最高速度設定ダイヤル

151154-00JA

図 2-22

- ・ 右に回す：最高速度が速くなります。
- ・ 左に回す：最高速度が遅くなります。

【参考】

狭い場所を走行する場合などに、最高速度を抑えることで、操作しやすくなります。

直進調整ダイヤル

走行時の旋回具合を調整できます。(図 2-23)



直進調整ダイヤル
図 2-23 151155-00JA

- ・ 右に回す：
右のクローラの回転が遅くなります。
- ・ 左に回す：
左のクローラの回転が遅くなります。

【参考】

傾斜地で走行する場合、曲がってしまうときに調整します。

平地で曲がるときは直進するように調整してください。

応答性切替スイッチ

送信機を操作したときの反応速度を設定できます。(図 2-24)



応答性切替スイッチ
図 2-24 151156-00JA

- ・ 「早」位置：
送信機を操作したときの反応が早くなります。
- ・ 「並」位置：
送信機を操作したときの反応が普通になります。
- ・ 「遅」位置：
送信機を操作したときの反応が遅くなります。

画面切替ボタン (左)

LCD 画面の表示をホーム画面 (図 2-30) とモニター (機体情報) 画面 (図 2-31) に切り替えできます。

ボタンを押すことで、LCD 画面の表示を切り替えます。



画面切替ボタン(左) ホーム画面 154180-00JA

図 2-25

【参考】

モニター (機体情報) 画面は 39 ページを参照してください。

画面切替ボタン (右)

トリム情報などを表示できますが、通常は使用しません。(図 2-26)

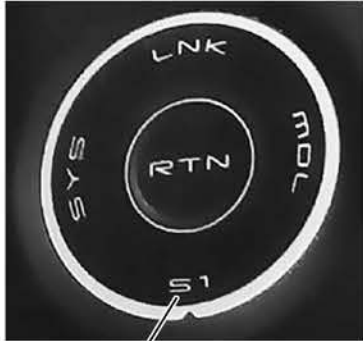


画面 画面切替ボタン(右) 151158-00JA

図 2-26

タッチセンサー

モニター（機体情報）画面のページ切替ができます。他の位置は使用しません。（図 2-27）



「S1」位置

図 2-27

151159-00JA

- ・「S1」位置：
触ると 1/2 画面と 2/2 画面が切り替わります。

【参考】

画面切替ボタン（左）でホーム画面に戻ります。

デジタルトリム



T4

T3

T2

T1

図 2-28

151160-00X

- ・「T1」：触らない（左右が +0 に調整）
- ・「T2」：触らない
- ・「T3」：触らない（前後が +0 に調整）
- ・「T4」：触らない

【重要】

触ってずれてしまったときは、「T1」と「T3」を上記の通りに調整してください。「T2」と「T4」は本機では使用していません。

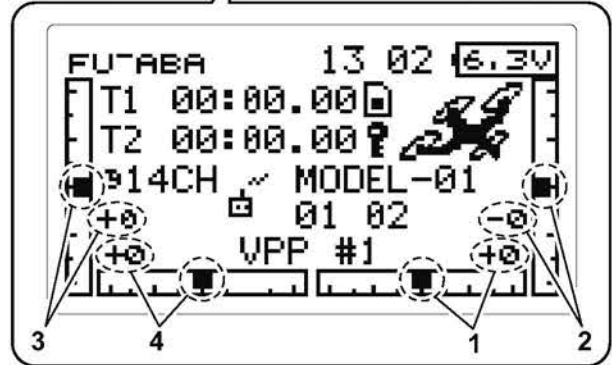


図 2-29

159383-00JA

- (1) T1の表示 (3) T3の表示
- (2) T2の表示 (4) T4の表示

LCD 画面

機械の状態を表示することができます。

■ ホーム画面

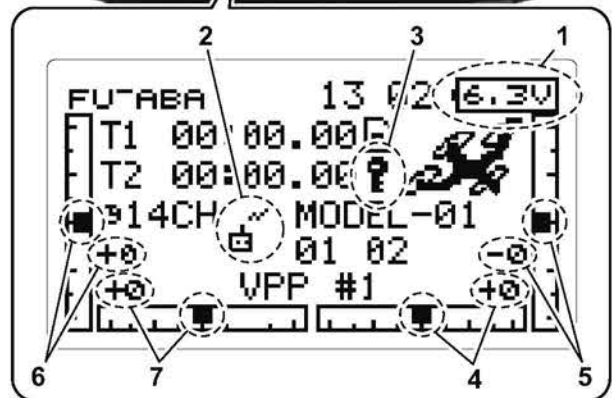


図 2-30

159384-00JA

- (1) 送信機の電圧
- (2) 電波送信状態（送信時に現れる）
- (3) ロック（送信機の設定・操作のロック状態）
- (4) T1の表示 (6) T3の表示
- (5) T2の表示 (7) T4の表示

■ モニター（機体情報）画面

ホーム画面のときに画面切替ボタン（左）を押すと、モニター（機体情報）画面になります。

タッチセンサー「S1」を押すごとに、画面の1/2と2/2が切り替わります。

モニター（機体情報）画面のときに、画面切替ボタン（左）を押すと、ホーム画面に戻ります。（図 2-31）



図 2-31

〈モニター（機体情報）画面 1/2〉

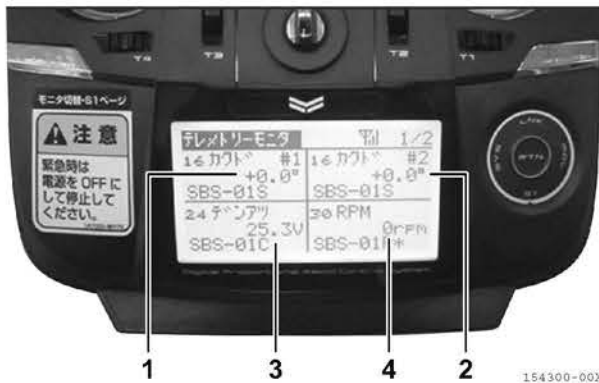


図 2-32

- (1) 前後傾斜角度
- (2) 左右傾斜角度
- (3) 本機電圧
- (4) 刈取り回転数

〈モニター（機体情報）画面 2/2〉

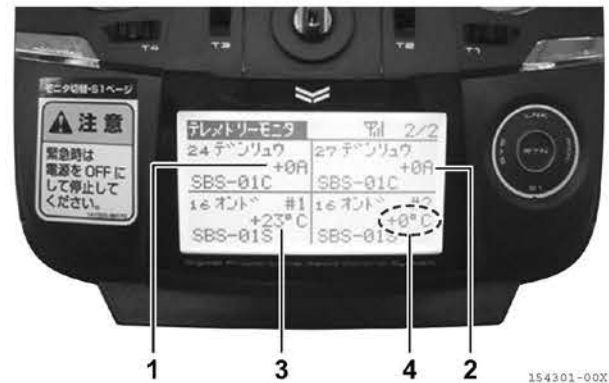


図 2-33

- (1) 左走行モーター電流
- (2) 右走行モーター電流
- (3) コントローラー筐体温度
- (4) エラーコード表示
℃と表示されていますが、ここに表示される数字がエラーコードです。
(エラーコードの詳細は81ページを参照)

■ キーロック

キーロックモードに設定されている場合、キーのアイコンが表示されます。この場合、タッチパネルの操作がロックされます。

〈キーロックの設定／解除〉

HOME/EXIT ボタンか、タッチセンサー「S1」を1秒間タッチします。

キーロックを設定／解除することができます。

充電コネクター

付属の充電器を接続して、送信機に充電するときに使用します。(図 2-34)

【重要】

HBC-3A (4) 以外の充電器は接続しないでください。



図 2-34

151163-00JA

トレーナー機能コネクター

使用しません。

S.I/F コネクター

使用しません。

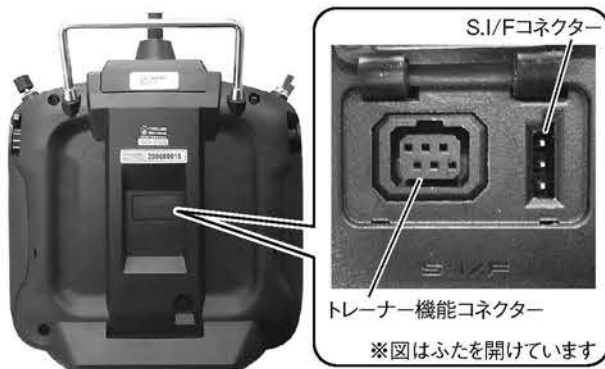


図 2-35

151164-00JA

スライドレバー (RS/LS)

使用しません。
操作しても本機には影響しません。

イヤホンジャック

使用しません。



図 2-36

151165-00JA

ストラップ用フック

送信機の落下を防ぐためのストラップを接続するためのフックです。(図 2-37)



図 2-37

151166-00JA

運転前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえたばこや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所に駐車し、エンジンを停止したあと、本機の電源を「切」にしてください。
- エアクリーナーのエレメントは、必ず取り付けてから始動・運転をしてください。

【守らないと】

逆火により炎がふき出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- ナイフが破損していないか、ナイフの取付ボルト・ナットにゆるみがないことを確認してください。

【守らないと】

破損やゆるみがあると機械が破損して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。

【守らないと】

カバー類が破損した状態で使用すると、石などの飛散物が当たったり、ロータリーカッターに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

- 使用前には必ず点検をしてください。特に操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しないときは、確実に作動するように調整してください。

【重要】

- このラジコン草刈機は、小型特殊自動車の認定を受けていません。公道走行はしないでください。
- 指定された純正品のナイフ・ボルト・ナットを使用してください。

点検のしかた

運転・作業を行う前に、つぎの点検を行ってください。

表 2-1 点検のしかた

点検箇所	参照ページ
各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか。	65
燃料は入っていますか。 燃料漏れ、燃料ホースの損傷はありませんか。	56
エアクリーナーに汚れはありませんか。	58
マフラーなどの過熱部分にほこりやごみはありませんか。	59
配線の被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか。	—
各操作部の作動状態は正常ですか。	30~40
エンジンスイッチを「停止」位置にして、エンジンが停止しますか。	45

始動と停止

警告

- エンジンの始動および運転は、閉め切った屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動、運転する場合は、十分に換気をしてください。
- エンジンを始動する前に、周囲の安全を確認してください。

2

運転のしかた

始動のしかた

1. 緊急停止スイッチが「運転」位置であることを確認します。
2. 本機の電源スイッチを押します。
電源が「入」になります。
約0.5秒間、ブザーが鳴り、同時に警告ランプが点灯します。
アワーマーターが点灯状態になります。
(図 2-38)

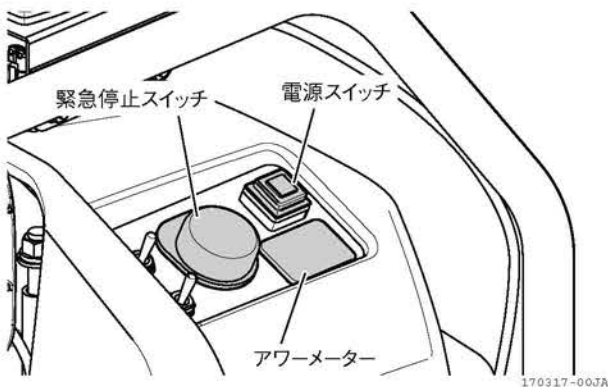


図 2-38

3. 送信機の電源スイッチを「入」にします。
4. 送信機の走行操作スティック（旋回）を右に倒してロックを解除します。
走行ができます。

【参考】

このラジコン草刈機は、バッテリーが十分充電されていれば、エンジンを始動しなくても短時間（10分程度）であれば走行可能です。

5. 送信機の刈取りクラッチスイッチが「切」位置であることを確認します。(図 2-39)



図 2-39

6. プライミングポンプを押して、燃料をキャブレターに送ります。(図 2-40)

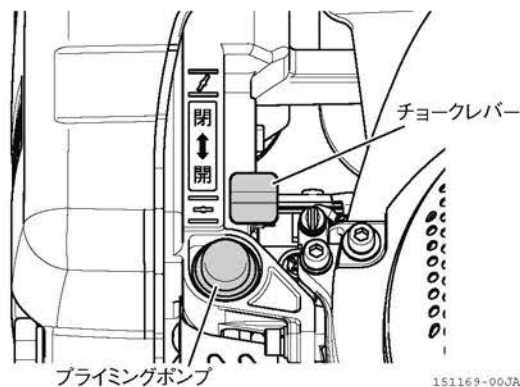


図 2-40

7. エンジンが冷えている場合、チョークレバーを「閉」位置にします。

【重要】

エンジン始動後は、チョークレバーを確実に「開」位置にしてください。

エンジン停止後、すぐに始動するときは、チョークレバーを「開」位置にしてください。

守らないと、エンジンに不具合が生じる場合があります。

エンジン始動操作のしかた

■ リコイルスターターで始動する場合

1. 送信機のエンジンスイッチを「始動」位置にします。(図 2-41)



図 2-41 エンジンスイッチ

2. リコイルスターターを引っ張ります。
3. エンジンが始動したらリコイルスターターをゆっくりと元に戻します。(図 2-42)

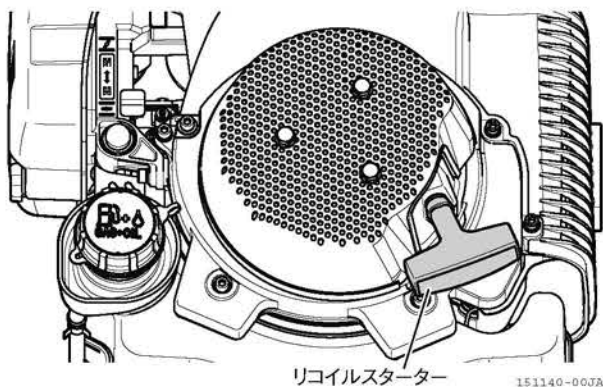


図 2-42 リコイルスターター

4. エンジンが冷えている場合、エンジンの状態を見ながらチョークレバーを徐々に「開」位置にします。

【重要】

- 勢いよくリコイルスターターを引かないとエンジンは始動しません。
- 始動ロープは最後まで引ききらないでください。引ききってしまうと破損するおそれがあります。
- リコイルスターターを引いたあとは、リコイルスターターから手を離さずに戻してください。リコイルスターターを引いてすぐに手を離すと、エンジンが故障するおそれがあります。

- リコイルスターターを何回も引っ張り続けると、燃料の吸いすぎとなり、始動が困難になります。そのときは、少し時間をおいてから始動してください。
- 運転中は、リコイルスターターを引っ張らないでください。

【参考】

リコイルスターターを2～3回引っ張ってもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを「開」位置にして、再度リコイルスターターを引っ張ります。

5. 約5分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

【重要】

冬季など、外気温が低い場合は、暖気運転を10分以上行ってください。また、アイドル時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)を起こすときがあります。

そのような場合は、エンジンスイッチを「運転」位置にしてください。

■ セルスイッチで始動する場合

1. 送信機のエンジンスイッチを「始動」位置にします。(図 2-43)



図 2-43 エンジンスイッチ

2. セルスイッチを押し込みます。(図 2-44)
押している間だけセルモーターが回ります。
5 秒以上連続で押しているとセルモーターが停止します。



図 2-44 セルスイッチ

3. エンジンが冷えている場合、エンジンの状態を見ながらチョークレバーを徐々に「開」位置にします。

【重要】

- セルモーターを 5 秒間回してもエンジンが始動しないときは 10 秒以上休んでから再始動してください。
- セルモーターを短い休止時間で断続的に回さないでください。機械が破損する場合があります。
- 始動を 6 回連続で失敗すると、冷却のためセルモーターが 1 分間作動しません。5 回目の始動から 1 分以上操作しない場合はリセットされます。

- 本機のバッテリーが充電されていないとセルスイッチでエンジン始動はできません。(71 ページの「整備のしかた」を参照)
リコイルスターターでエンジンを始動してください。
- 低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため、始動できない場合があります。その際は、リコイルスターターで始動してください。
- 運転中はセルスイッチを押さないでください。火災やエンジン破損の原因につながる場合があります。

【参考】

セルモーターを 2 ～ 3 回回してもエンジンが始動しないときはチョークレバーを「開」位置にして、再度セルモーターを回します。

停止のしかた

1. 送信機のエンジンスイッチを「始動」位置にします。
エンジン回転がアイドリングになります。
2. アイドリング状態で、1分以上冷却運転をします。

【重要】

冷却運転をしないでエンジンを停止すると、アフターファイヤーが発生し、爆発音が発生する場合があります。

3. 送信機のエンジンスイッチを「停止」位置にします。
エンジンが停止します。

【重要】

- 非常時には、送信機の操作に関係なく、本機の緊急停止スイッチを押すことでもエンジンと走行が停止します。
- ストップスイッチやリード線などの故障で、スイッチを操作してもエンジンが停止しないときは、緊急手段としてチョークレバーを「閉」の位置にしてください。エンジンは失速停止します。その後、直ちにお買い上げいただいた特販店、またはJAへ修理をご依頼ください。

運転操作

ラジコン草刈機の発進から停止までの操作方法を説明します。

▲ 警告

- 移動時は送信機の刈取りクラッチスイッチを「切」にして、ロータリーカッターを回転させずに走行してください。
- ラジコン草刈機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い場所は低速で移動してください。
- 走行時は周囲に十分注意し、見通しの悪い場所では低速で走行してください。

▲ 注意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通るときは、低速で走行してください。

【重要】

送信機の走行操作スティックから手を放すと走行は停止します。
危険を感じたら送信機の走行操作スティックから手を放してください。

発進・後進のしかた

送信機の走行操作スティック（前後進）を操作して、前進または後進します。（図 2-45）



走行操作スティック(前後進)

151149-00JA

図 2-45

- ・ 前に倒す：前進します。
- ・ 後に倒す：後進します。
- ・ 手を放す：
スティックが「停止」に戻り、本機が停止します。

変速のしかた

送信機の走行操作スティック（前後進）を前後に倒して、変速します。大きく倒すほど速度が早くなります。

【参考】

最高速度設定ダイヤルで速度の上限を規制できます。

規制すると、走行操作スティック（前後進）をいっぱい倒しても設定以上の速度にはなりません。

旋回のしかた

送信機の走行操作スティック（旋回）を左右に倒して、旋回します。

スティックを大きく倒すほど旋回半径が小さくなります。（図 2-46）



走行操作スティック(旋回)

151150-00JA

図 2-46

【参考】

走行停止状態で旋回操作すると、その場で旋回（信地旋回）します。

停車のしかた

▲ 注意

平たんで安定した場所に本機を移動させてからエンジンを停止し、電源を「切」にしてください。

【守らないと】

ラジコン草刈機が動き出し、けがをするおそれがあります。

1. 平たんで安定した場所に本機を停車させます。
2. 送信機のエンジンスイッチを「停止」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-47)



図 2-47

3. 本機の電源スイッチを長押し (1 秒) して、「切」にします。(図 2-48)



図 2-48

4. 送信機の電源を「切」にします。

作業前の準備

1. 本機と送信機の電源を入れます。
2. 作業場所の傾斜が作業可能範囲に入っていることを確認します。
3. エンジンを始動して、作業ができる状態にします。(42 ページを参照)

【重要】

- 作業開始前に、ほ場内（作業範囲）に異物や障害物、作業に支障がある場所がないことを確認してください。
- 石やその他の異物は事前に取り除いてください。
- 除去不能な障害物や作業に支障がある場所がある場合には、注意標識または作業禁止範囲を示す安全柵などを設けたあとで作業を始めてください。
- 安全柵などを設けたほ場では、安全のために、通常よりも速度を低くして高刈で作業を行ってください。
障害物などとの接触や乗り上げなどにより、ロータリーカッターが破損したり、機械が転倒したりする場合があります。

作業について

⚠ 警告

- ロータリーカッターの下に足を入れないでください。
【守らないと】
ロータリーカッターが動いたときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 斜面で作業する場合は、機械の上側で操作してください。
【守らないと】
機械より下にいると、機械が転倒した場合に巻き込まれ、傷害事故を引き起こす場合があります。
- ハウス内で作業する場合は、排出ガスが充满しないように、十分換気をしてください。
- 作業時以外ではロータリーカッターの回転を止めてください。
- マフラーに付着した枯草やわらなどは取り除いてください。
【守らないと】
火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 作業をするときは、十分周囲に注意を払い、人や動物を近づけないでください。

高さ調整のしかた

送信機の刈高さスイッチを希望の位置にします。
ロータリーカッターの高さが変わります。(図 3-1)



図 3-1

- ・「低」：刈高さ約 4.0 cm
- ・「中」：刈高さ約 5.5 cm
- ・「高」：刈高さ約 7.0 cm

【参考】

- 刈高さは、ほ場条件で変化しますので数値は目安です。
- 作業後草丈は、3.0～8.0 cm です。

ほ場での作業のしかた

草刈作業

1. 機械を作業場所に移動させます。
2. エンジンスイッチを「運転」位置にします。
エンジン回転が最大になり、クラッチがつながることで発電機が回ります。(図 3-2)



図 3-2

3. 刈取りクラッチスイッチを「入」にします。
刈取りクラッチがつながり、ロータリーカッターが回ります。(図 3-3)



図 3-3

4. 左右傾斜角警報設定スイッチを設定します。
設定できる左右の傾斜角度は「45°」「40°」「35°」の3つです。(図 3-4)



図 3-4

警報について

作業中に設定した傾きを越えると、走行が停止し、警報が出ます。

走行操作スティック（前後進）を一旦停止位置にすると、再度動かすことができます。

角度がゆるくなる方向にゆっくりと移動してください。設定角度以下になると警報は消えます。

警報が出ている間は、走行速度の上限が 1/2 になります。

- 傾斜地へ進入する前に、傾斜地の角度が作業可能な角度か確認します。

【重要】

作業可能角度を越える傾斜地に進入すると、機械が転倒し事故を起こす場合があります。

- 走行操作スティックを操作して、草刈場所へ機械を進入させます。
草刈が開始します。

■ 傾斜地の進入方法について

傾斜地へは上から斜めに進入します。

傾斜地の角度が確認できない場合は、機械が下まで転落する事故を防止するために、傾斜地の下から進入してください。

作業可能角度を超えるようであれば、その傾斜地の作業は中止してください。

作業中に傾きが 60° を越えると、転倒と判断して安全のため、走行・エンジンが停止します。また、ブザーが連続で鳴り、警報ランプが点灯します。

本機の電源をいったん「切」にして、再度「入」にすると、動かすことができます。

■ 下から進入した場合

- 機械を草を刈る一番上の位置に移動させます。
- 上の位置から機械を等高線に沿って、左右に移動させながら、だんだん下に向かって刈取をします。（図 3-5）

【重要】

転倒事故発生時に巻き込まれないために、オペレーターは必ず上段から操作してください。

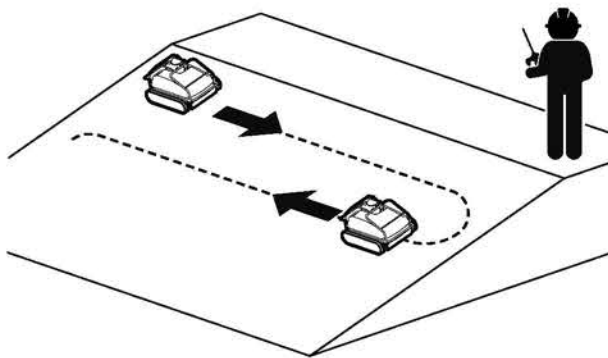


図 3-5

151172-00X

【参考】

下から上に向かって移動させると刈った草で滑ります。

- 前進と後進を交互に繰り返して、作業します。

快速制御機能

刈取り負荷が大きく、エンジン回転が下がるような場合、自動的に減速します。

刈取り負荷が小さくなると、自動的に増速して復帰します。

刈取り負荷が急激にかかると、減速が間に合わず、エンジンが停止する場合があります。

作業中は常時「入」となります。

セーフティー制御機能

刈取り負荷が大きくなり、ロータリーカッターの回転が一定以下になると、エンジン回転がアイドリングとなり、ロータリーカッターが止まります。約0.5秒のブザーが4回鳴り、同時に警告ランプが点滅します。

走行は停止しません。

送信機のエンジンスイッチをいったん「始動」位置にして、再度「運転」位置に操作すると、エンジン回転が最大になります。最大にならない場合は刈取部を点検し、負荷の要因を取り除いてから作業を再開してください。

■ 負荷の要因

〈草の量が多い場合〉

草刈が終わった所に、いったん後退させて、回転が正常なことを確認したあと、速度を遅くして作業してください。

〈ビニールなどの異物が巻き付いている場合〉

機械を安全な所に移動させたあと、本機の電源を「切」にしてから異物を取り除いてください。

左右調整機能

傾斜地での作業中、常に同じ方向に曲がる場合は、直進調整ダイヤルを調整すると、進行方向が安定して操作しやすくなります。

直進調整ダイヤルを回すと、左右のクローラに速度差ができ、常に小旋回している状態になります。

平地に戻ったときは、直進走行時に旋回しますのでダイヤルを元の位置に戻してください。(図3-6)



直進調整ダイヤル

図 3-6

151155-00JA

■ 傾斜地をのぼる場合

傾斜地をのぼる場合は、基本的に斜め走行をしてください。

走行が安定するとともに、その後の作業がしやすくなります。

■ 傾斜地に対して垂直方向にのぼる場合

傾斜地に対して垂直方向に走行する場合、機械の前後方向の傾斜は最大30度です。

30度を超えると、機械は停止して警報ランプが点滅し、警報ブザーが鳴ります。

走行操作スティック（前後進）を一旦停止位置にすると、動かすことができます。

30度を越えていると、走行速度の上限が1/2になります。

■ 斜面で停止する場合

斜面で停止する場合は必ず、前後方向に傾斜がないように停止させてください。

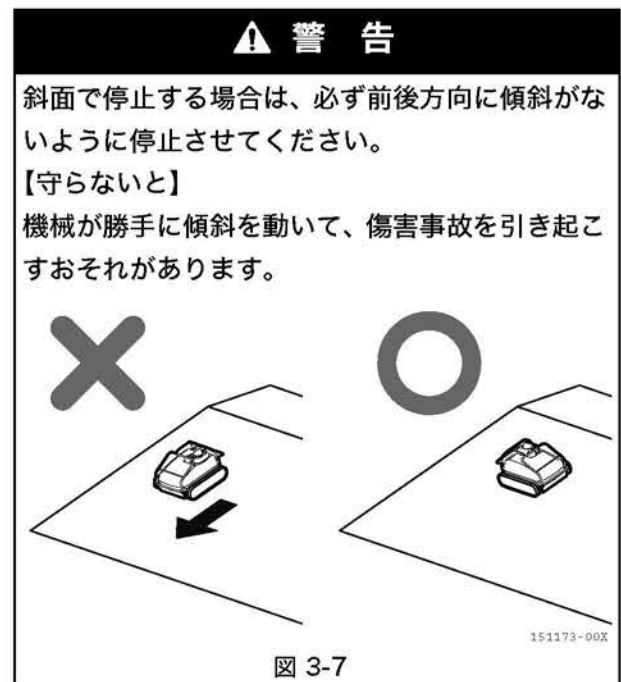


図 3-7

151173-00X

【重要】

電源が入っていればブレーキがかかりますが、それでも傾斜を下降する場合があります。

無操作の場合、バッテリー保護のため、30分で電源が「切」になります。電源が「切」になるとブレーキがかからないため、勢いよく斜面を下降する場合があります。

4章 お手入れのしかた

作業後の手入れのしかた

⚠ 注意

ナイフの手入れ・洗浄は、必ずエンジンを停止し、厚手の手袋を着用して行ってください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。

作業後はその日のうちに掃除・水洗いを実施し、水洗い後は水分をよくふき取って、各回転部・摺動部に適量注油してください。

ボンネット上部からの水洗いは禁止です。

ナイフやカッター軸、カッターカバー内に付着した土はきれいに洗い流してください。

また、カッター軸に草などが巻き付いていたら、取り除いてください。

【重要】

● モーターや発電機といった電装品に水がかからないようにしてください。

万一かかったときは、エアなどで吹きとばしてください。そのままにすると故障の原因になります。

● リコイルスターター部の吸気口に付いたごみはきれいに取り除いてください。

リコイルスターター部の吸気口はエンジンの冷却風を吸い込むところです。

きれいに掃除しないと、エンジンの過熱や出力低下、故障の原因になります。

● 本機を 45 度以上の角度で保持しないでください。バッテリー液がもれる場合があります。

4
お
手
入
れ
の
し
か
た

洗浄のしかた

⚠ 警告

● 洗浄は、平たんで安定した場所で行ってください。

【守らないと】

機械が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

● 高圧洗浄機で洗浄するときは、洗浄ノズルを「拡散」位置にし、洗浄ノズルを機械から 2 m 以上離してください。

【守らないと】

・ 電気配線の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

・ 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

〈直接洗車厳禁〉

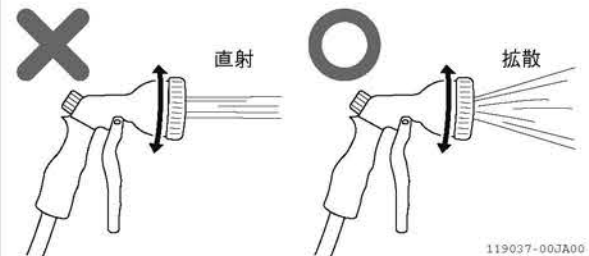


図 4-1

〈近距離放水厳禁〉

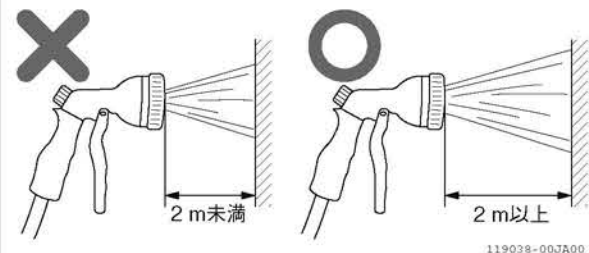


図 4-2

作業したその日のうちに機械を水洗いし、水洗い後は以下の掃除を行ってください。

- ・ 作業機などの回転部にはさまったり、巻き付いたりしている異物やごみを取り除く
- ・ 水分をよくふき取る
- ・ さびやすいところにはグリスを塗る
- ・ 回転部・摺動部に注油する
- ・ 各グリス注入部に、グリスアップを行う

電装品接続部（カプラー）に水や泥水などが浸入した場合は、エアブローなどで吹き飛ばしてください。

【重要】

- 洗車のしかたが不適切な場合、故障や破損の原因になります。
 - ・ 安全銘板やシールのはがれ
 - ・ 電子部品、エンジン・ミッションへの水の浸入による故障
 - ・ オイルシール、クローラなどのゴム類、樹脂製のカバー、ガラスなどの破損
 - ・ 塗装、メッキ面の皮膜のはがれ
- 高圧洗浄機などにより洗車をするときは、以下の箇所には圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。
 - ・ メーターパネル
 - ・ ステアリング周辺
 - ・ 油圧・走行操作レバー周辺
 - ・ バッテリー周辺
 - ・ その他電装品
(スイッチやセンサー、コントローラーなど)

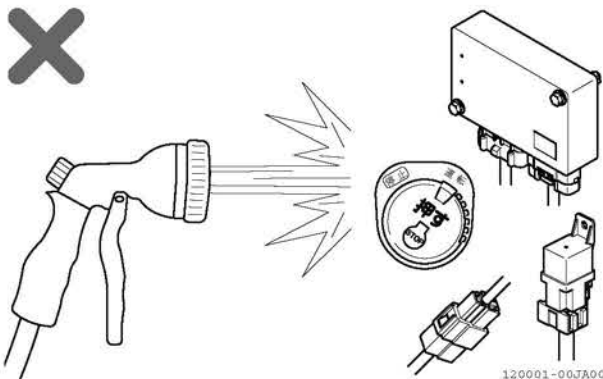


図 4-3

- エアクリーナー、電気部品には、水をかけないでください。故障の原因になります。
- 洗車時はカバー内に水が入らないようにしてください。水が入ると電気部品に水がかかり、故障の原因になります。

各部のグリス塗布箇所

■ 刈高さリンク支点部

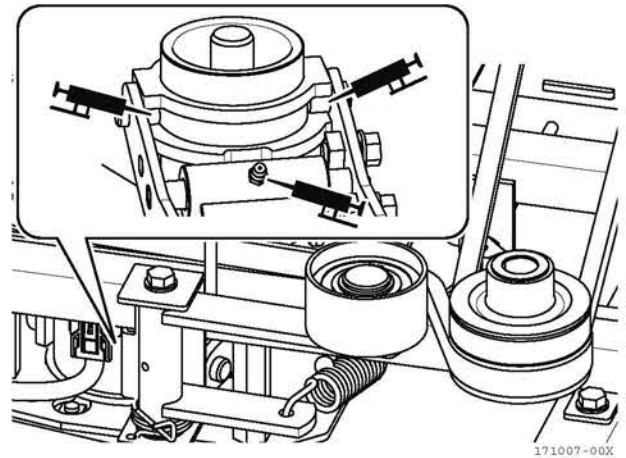


図 4-4

■ 刈取りブレーキ軸

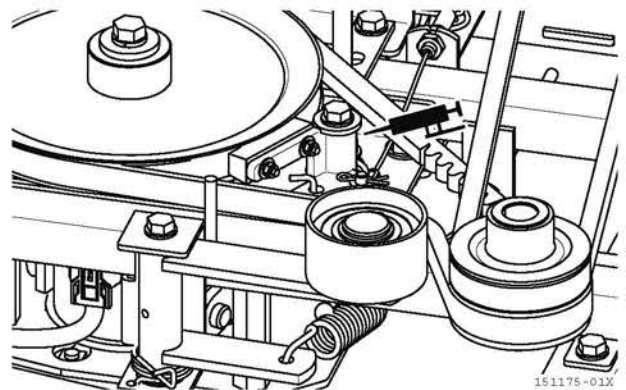


図 4-5

■ 刈取りクラッチテンション軸

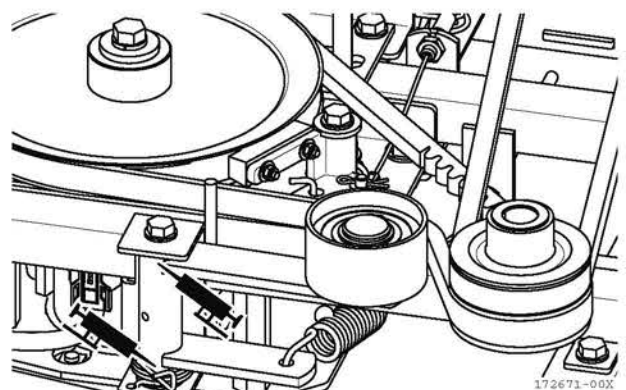


図 4-6

点検・整備のしかた

⚠ 警告

- 作業者及び補助者は作業に適した服装をしてください。
【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備時は、ラジコン草刈機を平たんで安定した場所に駐車し、エンジンを停止したあと、本機・送信機ともに電源を「切」にしてください。また、手袋を着用してください。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。
【守らないと】
エンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 機械の摩耗などで角部が鋭利になっていないか始業前に確認してください。また、鋭利部を見つけたらお買い上げいただいた特販店、または JA に修理をご依頼ください。
【守らないと】
人が触れてけがをするおそれがあります。
- ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。
【守らないと】
燃料が漏れて火災が起こり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部が十分冷めてから行ってください。
【守らないと】
やけどをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。
【守らないと】
元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

【重要】

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店、または JA にご相談ください。

定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行うと、農繁期にラジコン草刈機の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。

ラジコン草刈機の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに整備工場定期点検・整備を受け、各部の保安を確認してください。

特に燃料ホースやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常にラジコン草刈機を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。

定期点検一覧表

表 4-1 定期点検一覧表

点検・調節箇所	点検・交換時期	内容	参照ページ
エアクリーナーエレメント	作業前に点検・清掃 破損時に交換	スポンジを掃除、または中性洗剤で洗浄	58
エアクリーナーペーパー エレメント	作業前に点検・清掃 100時間または1年ごとに交換	内側からエアガンで清掃、またははたいてごみやほこりを落とす	58
マフラー周辺部・ダスト カバー	作業前と給油時に清掃		59
刈取りクラッチベルト	作業前に点検	指でベルト中央部を約3 kgfの力で押したときのたわみ：10～15 mm	61
発電機駆動ベルト	作業前に点検	指でベルト中央部を約3 kgfの力で押したときのたわみ：10～15 mm	63
発電機取付ボルト	作業前に点検	増し締め	63
ナイフ	作業前に点検	ナイフの作用側が約10 mm摩耗したときに、反転または交換	66
クローラ	作業前に点検	張り具合、摩耗、傷・亀裂の有無の確認	70
点火プラグ	25時間ごとに点検	火花ギャップ（電極すきま）：0.6～0.7 mm 電極の損耗確認、電極の清掃	68
燃料フィルター	25時間ごとに点検・調整 詰まりを確認したら交換	燃料タンクよりフィルターを取り出し、ごみを取り除いたあと、混合燃料で洗浄	59
燃料タンクキャップ	給油時に点検・清掃 詰まりを確認したら交換		59
燃料ホース	給油時に点検 傷んだときは交換	交換はお買い上げいただいた特販店、またはJAへご依頼ください。	69
マフラー	50時間ごとに清掃		59
遠心クラッチ	300時間ごとに交換	交換はお買い上げいただいた特販店、またはJAへご依頼ください。	—
イグニッションコイル	300時間ごとに点検	点検はお買い上げいただいた特販店、またはJAへご依頼ください。	—
エンジンガバナー室	150時間ごとに点検・補給 300時間ごとに交換	点検・交換はお買い上げいただいた特販店、またはJAへご依頼ください。 ギヤオイルGL-5 90番：0.04 L	—
エンジン防振ゴム	作業前に点検	クラックなどの破損があるときは交換	65
エンジン取付ボルト	作業前に点検	増し締め	65
ナイフ取付ボルト・ナット	作業前に点検	増し締め	65
バー（カリバ取付ボルト・ ナット	作業前に点検	増し締め	65
電気配線	作業前に点検	電気配線の被覆はがれや傷の点検	69
シート（フロント・サイド・ リヤ）	作業前に点検	破損があるときは交換	68
バッテリー	作業前に点検	液量、電圧、漏れ・破損の有無の点検	71
カッター駆動軸上下スラ イド部	年1回・150時間どちらか早い方	点検・グリス塗布はお買い上げいただいた特販店、またはJAへご依頼ください。	—
刈高さリンク支点部	年1回・150時間どちらか早い方	グリス塗布	53
刈取りプレーキ軸	年1回・150時間どちらか早い方	グリス塗布	53
刈取りクラッチテンション軸	年1回・150時間どちらか早い方	グリス塗布	53

燃料の点検・補給・排出のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給・排出時は火気厳禁です。
 - ・ エンジンを必ず止めて燃料補給・排出をしてください。
 - ・ たばこなどの火気を近づけないでください。
 - ・ こぼれた燃料は必ずふき取ってください。
- 【守らないと】
燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
- エンジン回転中やマフラーが熱い間は燃料補給・排出をしないでください。
 - 【守らないと】
火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 規定量を守ってください。
 - 【守らないと】
入れすぎると燃料キャップから混合ガソリンがあふれ、こぼれた混合ガソリンに引火して火災が起こり、やけどや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給・排出をする前に、機械などの金属部分に触れて、体の静電気を放電してください。
 - 【守らないと】
静電気の放電による火花が気化した混合ガソリンに引火して火災や爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

燃料の補給・排出をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】
やけどや火災を引き起こすおそれがあります。

【重要】

混合ガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。
混合ガソリンの処分は、特販店またはJAへご相談ください。

燃料の点検・補給のしかた

1. 機械を水平な場所に置きます。
2. 燃料タンク側面から燃料を確認します。
3. 燃料キャップを外します。(図 4-1)

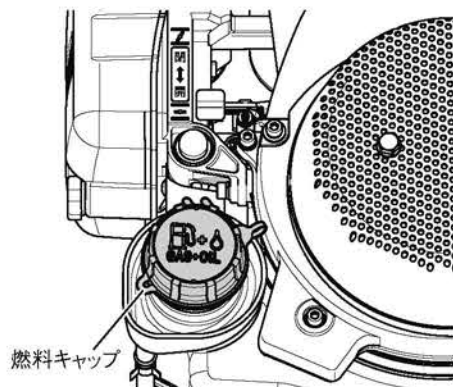


図 4-7

4. 燃料が不足している場合は、給油口首下まで補給します。

■ 使用燃料について

使用燃料はガソリンと2サイクル専用エンジンオイルの混合燃料です。
オイルは JASO 分類 FC 級を使用してください。
混合する割合（混合比）は下記の通りです。

表 4-2 混合比の例

ガソリン (L)	オイル (cc)
1	20
2	40
5	100
10	200
20	400

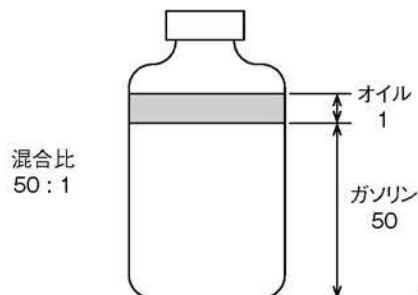


図 4-8

【重要】

- 点検時に燃料漏れのないことを確認してください。
- 2サイクルガソリンエンジン用の混合ガソリン（自動車用無鉛ガソリンと2サイクルエンジンオイルを指定の割合で混合したもの）を使用してください。
- 自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）をそのまま補給したり、軽油・灯油・または粗悪なガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンの故障につながります。
- エンジンオイルは必ず2サイクルエンジン専用オイルを使用してください。
- 必ず指定の混合比で使用してください。
- ガソリンとオイルは混合容器で十分混ぜ合わせてから給油してください。
- ガソリンは自然劣化します。ご購入後1カ月以上保管したガソリンを使用しないでください。
- 混合ガソリンは、混ぜてから、最大1カ月以内のものを使用してください。（ガソリン購入後、通算して1カ月以内）
- 燃料を規定以上に入れた場合は、規定量になるまで、すみやかに燃料を抜いてください。

燃料の抜きかた**▲ 危険**

電気式のポンプは使用しないでください。

【守らないと】

火花により気化した燃料に引火して、火災や爆発が発生し、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

1. 燃料キャップを外します。（図4-9）

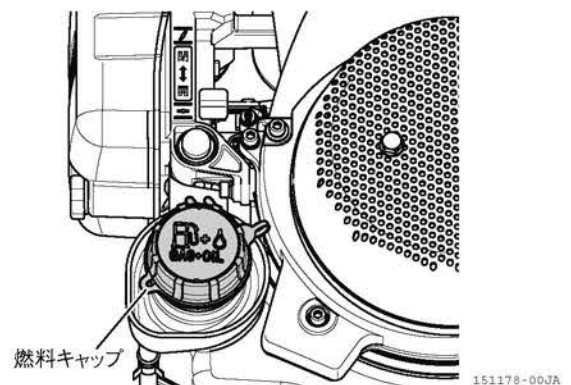


図 4-9

2. ポンプを給油口から入れて、燃料を排出します。
3. 抜いた燃料は混合ガソリン用の容器に受け取ります。

■ 長期保管時の燃料の抜きかた

1. エンジンを始動して、機械が停止するまで運転します。
2. タンクのフィルターを持ち上げます。
3. プライミングポンプを押して、キャブレターや配管内の燃料を排出します。

エアクリーナーの掃除のしかた

警告

エアクリーナーエレメントの掃除は運転前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。

【守らないと】

やけどをするおそれがあります。

エアクリーナーが汚れたままで使用すると、エンジンの出力低下やエンスト、故障の原因になります。つぎの要領で、エアクリーナーを定期的に掃除してください。

1. ノブボルト (2本) を外します。(図 4-10)

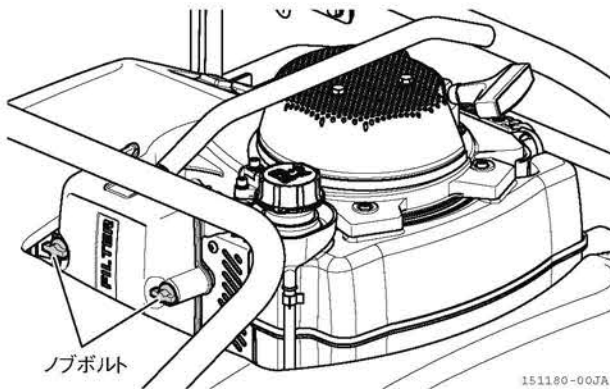


図 4-10

【参考】

エアクリーナーにはエレメント (スポンジ) とペーパーエレメントが入っています。

2. エレメント (スポンジ) は軽くはたいて、ごみやほこりを取り除く、または中性洗剤で洗います。洗剤を使用した場合は、十分に水洗いをし、よく乾かします。(図 4-11)

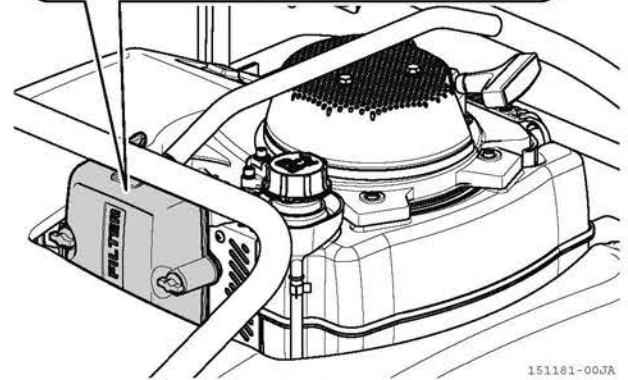
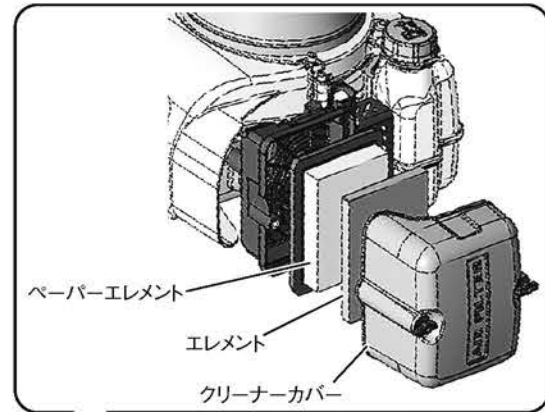


図 4-11

3. ペーパーエレメントを清掃します。

〈エアガンを使用する場合〉

必ずペーパーエレメントの内側から外側に向けてエアを吹き付け、ごみやほこりを吹き飛ばします。

〈エアガンがない場合〉

はたいてごみやほこりを落としてください。

ダストカバーの清掃のしかた

▲ 注意

- マフラー周辺部、ダストカバーのほこり、草くずは、きれいに取り除いてください。
(図 4-12)
【守らないと】
火災やエンジン故障の原因となります。
- やけど防止のため、エンジン停止後、十分冷えてから作業を行ってください。

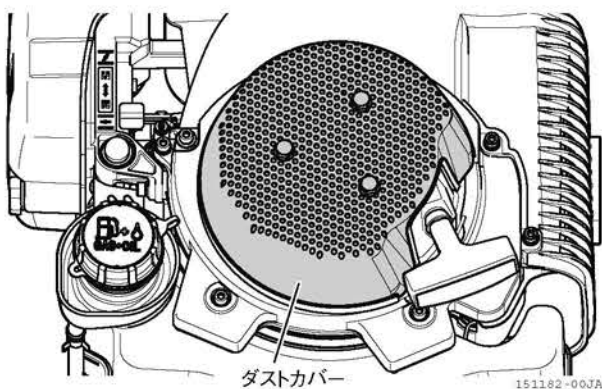


図 4-12

【重要】

マフラー周辺部、ダストカバーにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジン温度が上昇したりと、エンジントラブルの原因になります。

点検は運転前に欠かさず行ってください。

燃料フィルター・タンクの清掃のしかた

【重要】

燃料フィルターは詰まると、始動不良や加速不良の原因になります。

25 時間ごとに取り出して清掃してください。

1. 曲げた針金を準備します。(図 4-13)

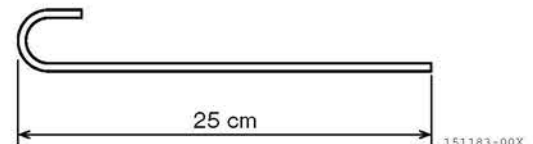


図 4-13

2. 燃料タンクキャップを外したあと、用意した針金を使用して燃料フィルターを取り出します。
(図 4-14)



図 4-14

3. 取り出した燃料フィルターのごみを取り除き、混合燃料で洗浄します。
汚れがひどいときはフィルターを交換します。
4. ピンセットなどで両側のつめを起こします。
(図 4-15)



図 4-15

5. ふたを矢印の方向に引き抜きます。
(図 4-16)

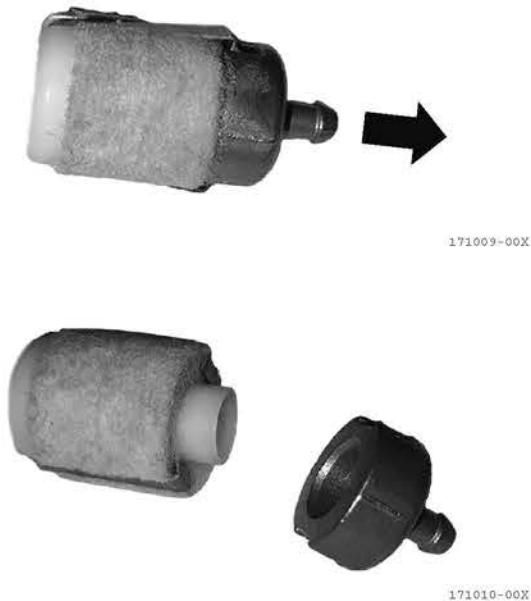


図 4-16

6. ふたの内側にあるフィルターを清掃します。
(図 4-17)

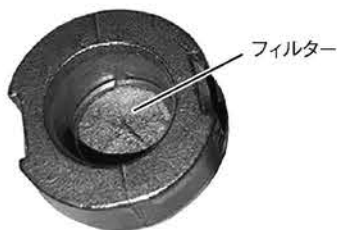


図 4-17

7. 燃料タンク内のごみを取り除き、混合燃料で洗
浄します。

【参考】

- 燃料タンク内や補給する燃料にごみがあると、燃
料フィルターが詰まりやすくなります。
 - 燃料タンク内の洗浄が難しい場合は、お買い上げ
いただいた特販店、またはJAへご依頼ください。
8. 燃料フィルターの清掃、交換後は、燃料フィル
ターが燃料タンク内で自由に動くように、燃料
タンク内に押し込みます。
9. 燃料タンクキャップを取り付け、しっかりと締
め付けます。

**ガードパイプおよびボンネットのオープン
のしかた**

1. ガードパイプを固定している平頭ピンのRピン
(左右各1個)を抜いて平頭ピンを外します。
(図 4-18)

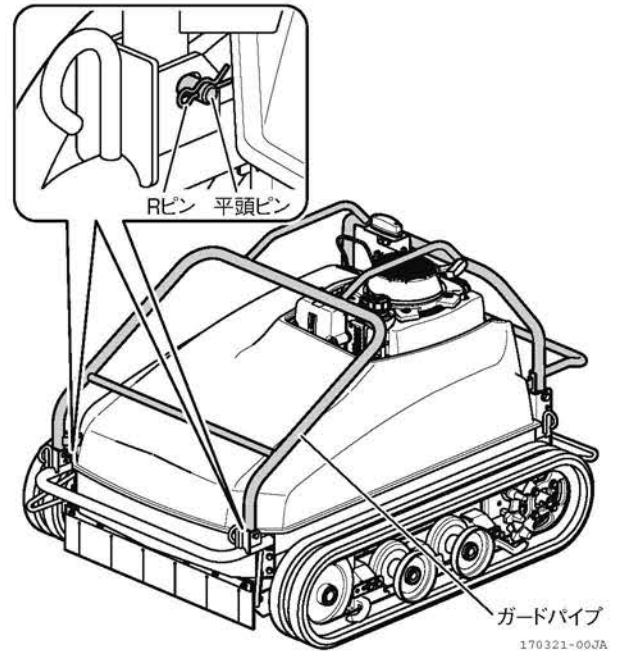


図 4-18

2. ガードパイプの前側を持ち上げます。ボンネッ
トもともにオープンします。(図 4-19)

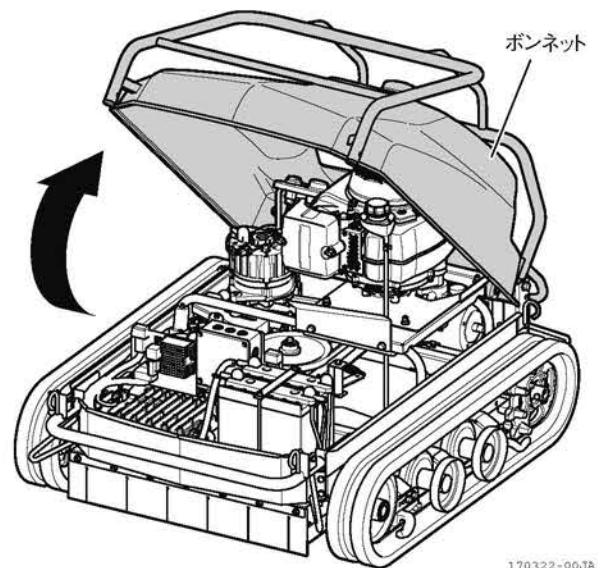


図 4-19

3. 外した平頭ピンを固定穴に差し、Rピンで止めます。(図 4-20)

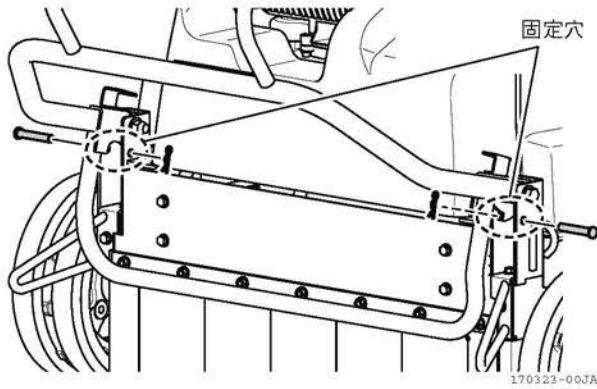


図 4-20 ボンネットオープン時後方

【参考】

平頭ピンを固定穴に差さないと、カバーが急に閉まる場合があります。

刈取りクラッチの点検・調整・ベルト交換のしかた

点検のしかた

1. 本機と送信機の電源を「入」にします。
2. 刈取りクラッチスイッチを「入」にします。
3. 刈取りクラッチモーターが動いて、刈取りクラッチが「入」位置になります。
4. ベルトの張りは、テンションの反対側を約3 kgfの力で押して、10～15 mmのたわみであるか点検します。(図 4-21)

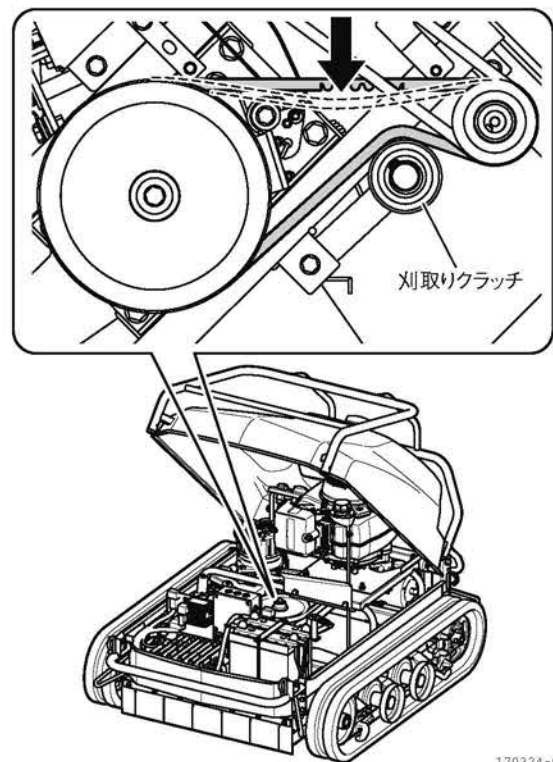


図 4-21

調整のしかた

テンションの反対側を約 3 kgf の力で押して 10 ～ 15 mm のたわみになるように、ワイヤを調整します。(図 4-22)

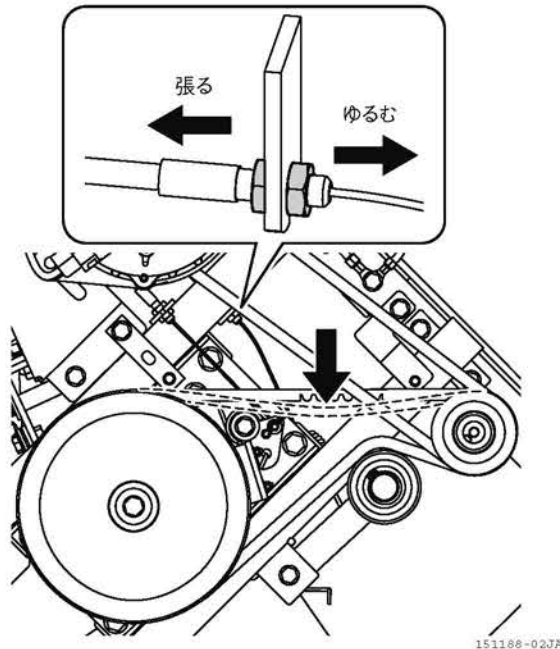


図 4-22

ベルト交換のしかた

1. テンションをゆるめた状態にします。
2. ロータリーカッター軸側のプーリーからベルトを外します。
3. エンジン側のプーリーからベルトを外します。
4. 逆の手順で取り付けます。
5. テンションを張った状態にして、ベルトの張りを確認・調整します。

ブレーキの点検・調整・交換のしかた

点検のしかた

1. 本機と送信機の電源を「入」にします。
2. 刈取りクラッチスイッチが「切」位置であることを確認します。
3. 刈取りクラッチスイッチが「切」位置のときに、ワイヤに遊びがあることを確認します。
4. 刈取りクラッチスイッチを「入」位置にしたときに、ブレーキがプーリーから離れ、解除されることを確認します。

調整のしかた

1. 刈取りクラッチスイッチが「切」位置のときに、ワイヤに遊びがあることを確認します。
2. 刈取りクラッチスイッチを「入」位置にしたときに、ブレーキがプーリーから離れ、解除されるようにワイヤを調整します。(図 4-23)

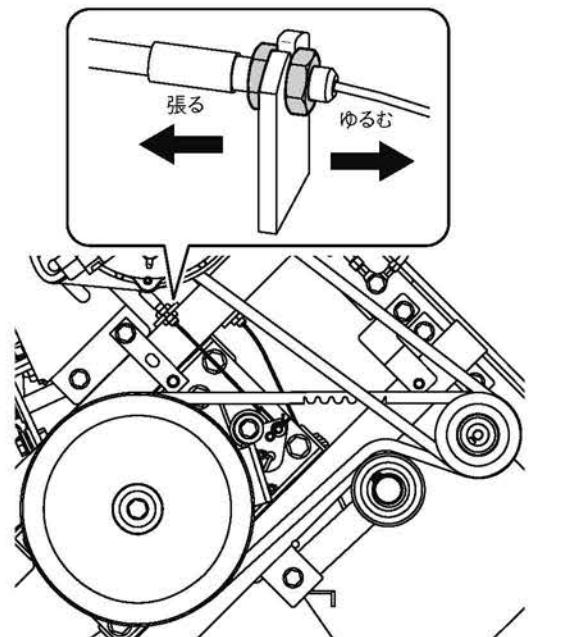


図 4-23

交換のしかた

プーリーの外周とブレーキステーが重なるようになったら交換の目安です。(図 4-24)

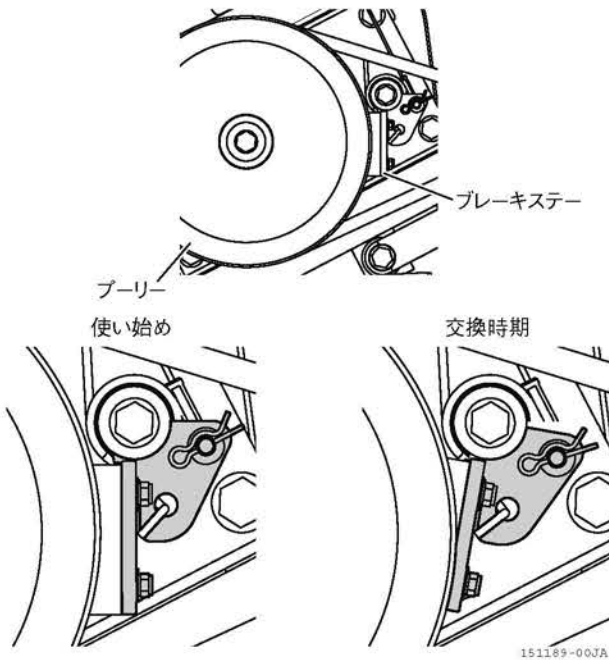


図 4-24

1. 本機と送信機の電源を「入」にします。
2. 刈取りクラッチスイッチが「切」位置であることを確認します。
3. 刈取りクラッチスイッチを「入」位置にしたときに、ブレーキがプーリーから離れ、解除されている状態にします。
4. ブレーキシューを固定しているボルト (六角穴付)・ナット (各2個) をゆるめます。(図 4-25)

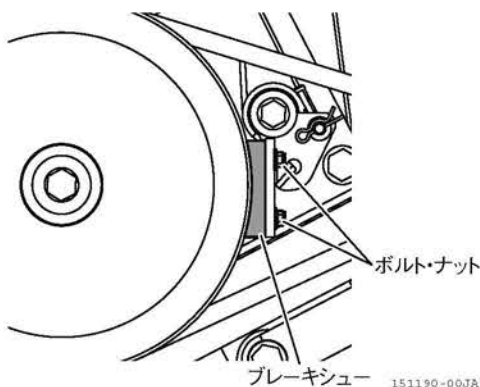


図 4-25

5. ブレーキシューを外します。
6. 逆の手順でブレーキシューを取り付けます。
7. ブレーキの作動に問題がないことを確認します。

発電機駆動ベルトの点検・調整・交換のしかた

点検のしかた

ベルトの張りは、ベルトの中央あたりを約 3 kgf の力で押して、10 ~ 15 mm のたわみであるか点検します。(図 4-26)

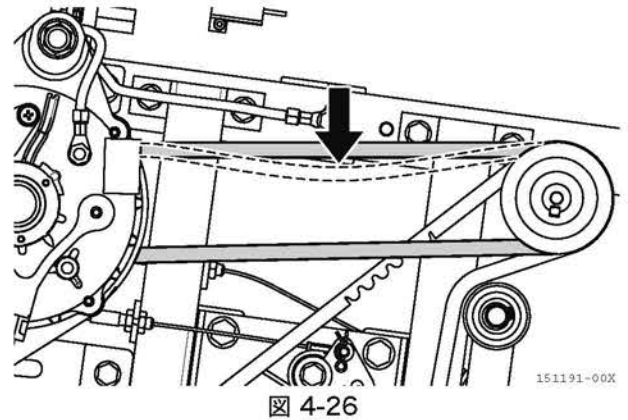


図 4-26

調整のしかた

1. 発電機を固定しているボルト、ナットをゆるめます。(図 4-27)

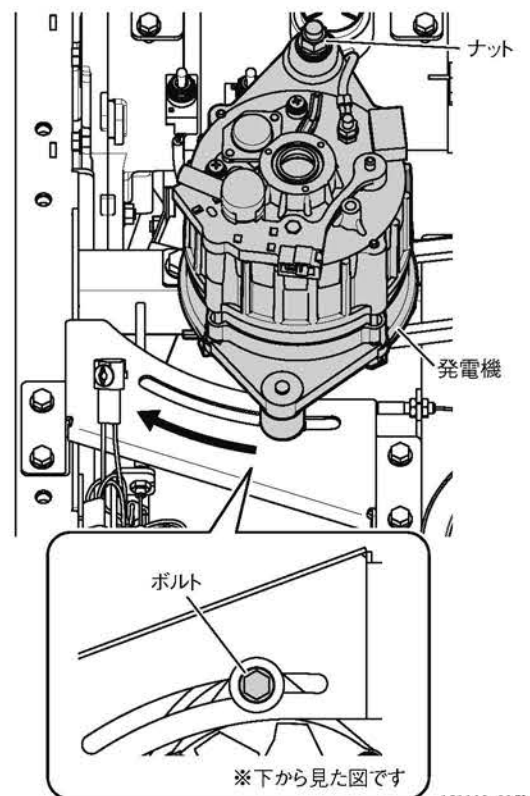


図 4-27

2. ボルト側（長穴）を、張り方向に動かしてベルトを張ります。
3. ボルトとナットを固定します。
4. ベルトの張りを確認します。

交換のしかた

1. 刈取りクラッチベルトを外します。
2. 発電機を固定しているボルト、ナットをゆるめます。
3. ボルト側（長穴）を、ゆるみ方向に動かしてベルトをゆるめます。
4. 発電機のベルトを外します。
5. 逆の手順で取り付けます。
6. ベルトの張りを確認します。

刈高さ調整リンクの点検・調整のしかた

1. 本機と送信機の電源を「入」にします。
2. 刈高さ調整スイッチを操作して、刈刃が上下に動いていることを確認します。

【重要】

調整・整備はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

アクセルワイヤの確認・調整のしかた

確認のしかた

1. 本機と送信機の電源を「入」にします。
2. エンジンスイッチが「停止」位置で、アクセルワイヤに遊びがあることを確認します。
(図 4-28)
3. エンジンスイッチが「運転」位置で、エンジンが最高回転になること（エンジンのアクセルレバーがストッパーに当たっていること）を確認します。

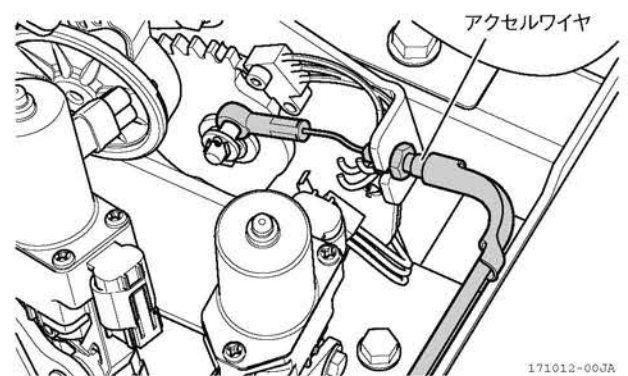


図 4-28

【重要】

エンジン回転が不調の場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

調整のしかた

「確認のしかた」の条件に合うようにワイヤアジャスター部のロックナットをゆるめて、調整します。
(図 4-29)



図 4-29

【重要】

アクセルワイヤがゆるいと、エンジン回転が低くなり、作業中に常時快速制御がはたらいて速度が低下します。ワイヤは適正に張るようにしてください。

増し締めするところ

■ エンジン防振ゴム (4カ所)

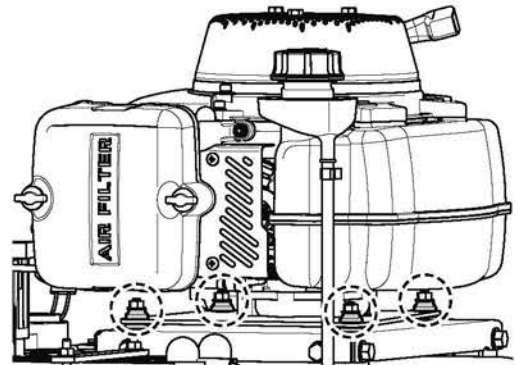
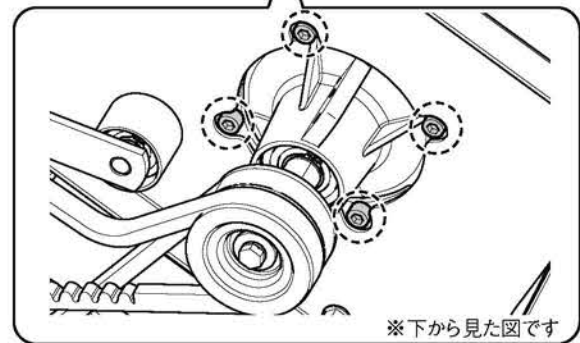
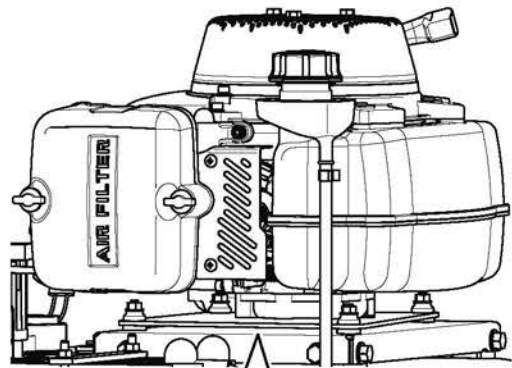


図 4-30

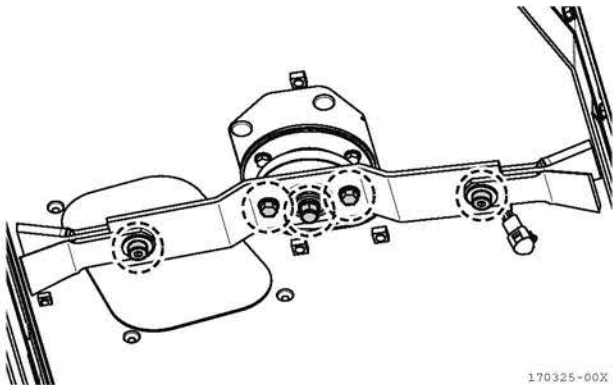
■ エンジン取付ボルト (4カ所)



※下から見た図です

図 4-31

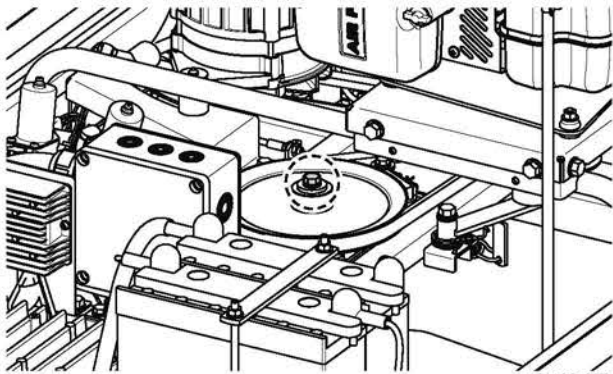
■ ナイフ、バー（カリバ取付ボルト・ナット
（5カ所）



170325-00X

図 4-32

■ ローターカッター駆動プーリー取付ボルト



151196-00X

図 4-33

ナイフの点検・交換のしかた

▲ 注意

ナイフの手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用してください。

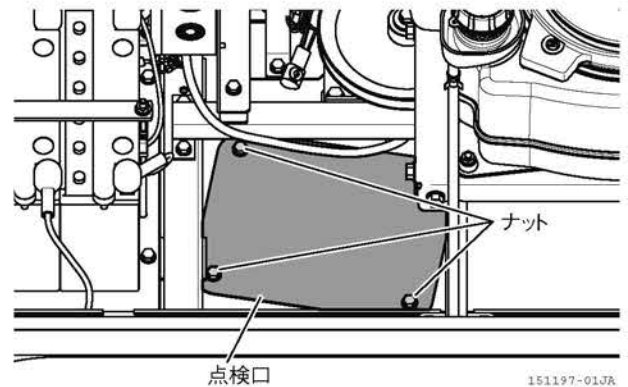
【守らないと】

けがをするおそれがあります。

効率のよい作業をしていただくために、ナイフは早めに交換してください。

点検のしかた

1. ボンネットをオープンします。(60 ページ参照)
2. 点検口のナット (3 個) を外します。(図 4-34)



151197-01JA

図 4-34

3. 点検口からナイフの損傷・曲がり、および摩耗を点検します。
4. 取付部のゆるみがないことを確認します。

■ ナイフの交換時期

ナイフの切れが悪くなったと感じたとき、またはナイフの片側が約 10 mm 摩耗したら、上下のナイフを裏返して入れ替えます。(図 4-35)

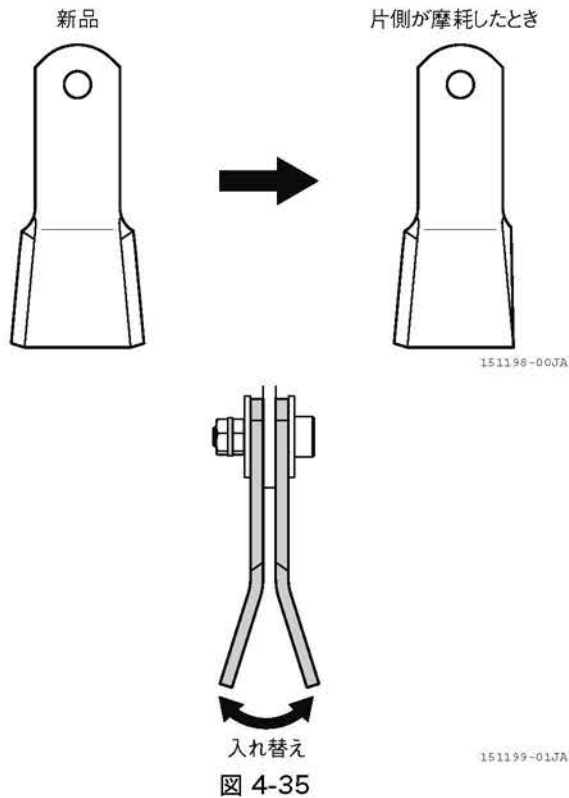


図 4-35

【参考】

ナイフの両側が約 10 mm 摩耗したり、変形・破損したりした場合は交換してください。

交換のしかた

▲ 注意

ナイフとボルト・ナットの向きと方向を間違えないように注意してください。

【守らないと】

ナイフが破損・脱落して、けがをするおそれがあります。

1. ナイフのボルト・ナットを外してナイフを交換します。(図 4-36)

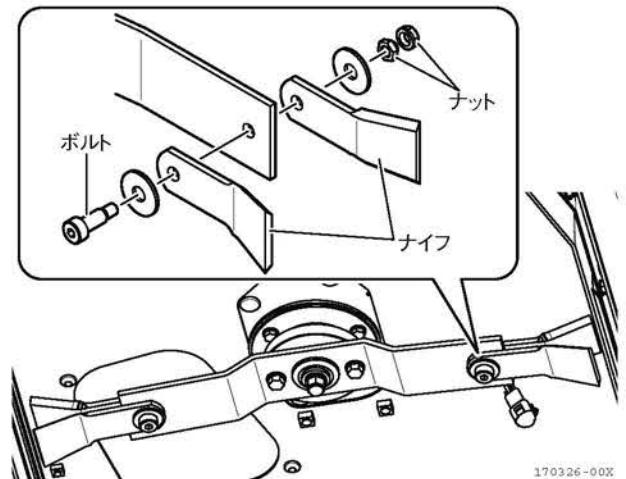


図 4-36

2. ナイフがフリーに動くことを確認します。

【重要】

- ナイフを取り付ける場合は、ナイフとボルト・ナットの向きと方向に注意して、正しく取り付けてください。
ナイフの向きをひっくり返すときも、ボルトは元と同じ方向（下から差す方向）で取り付けます。間違っていると、故障の原因になります。
- ナイフの向きをひっくり返したり、ナイフを交換するときは、2カ所同時に実施してください。
ロータリーカッターのバランスがくずれて、故障の原因になります。

フロントシート・リアシート・サイドシートの交換のしかた

フロントシート・リアシート・サイドシートが破損している場合は早めに交換してください。

フロントシート・リアシートは、それぞれのボルト(7本)を外して交換します。(図 4-37)

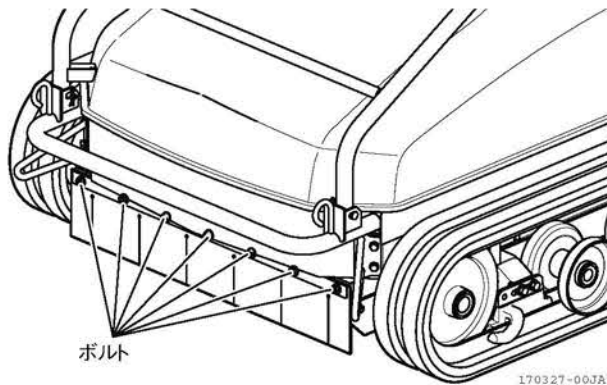


図 4-37 フロントシート

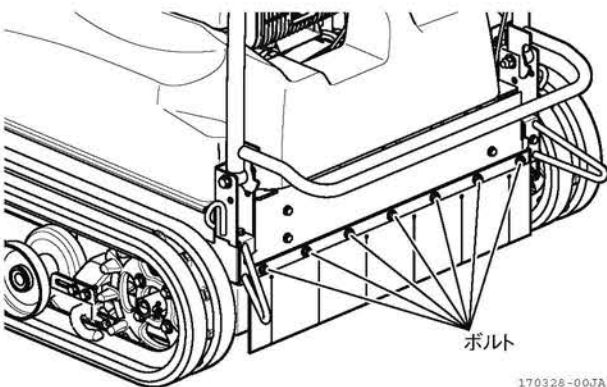


図 4-38 リヤシート

【重要】

ロータリーカッターとクローラの間にあるサイドシートが破損していた場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA へご依頼ください。

点火プラグの点検・掃除・交換のしかた

⚠ 警告

点火プラグの点検・掃除・交換は、運転前に行ってください。運転中、および運転直後は点検・掃除・交換をしないでください。高温部でやけどをするおそれがあります。

電極部がすすで黒ずんでいたり、損耗または破損している点火プラグを使用すると、エンジンの不調や排出ガス不良になります。

定期的に点火プラグの点検・掃除をしてください。

点検のしかた

1. キャップを矢印の方向に手で引き抜きます。(図 4-39)

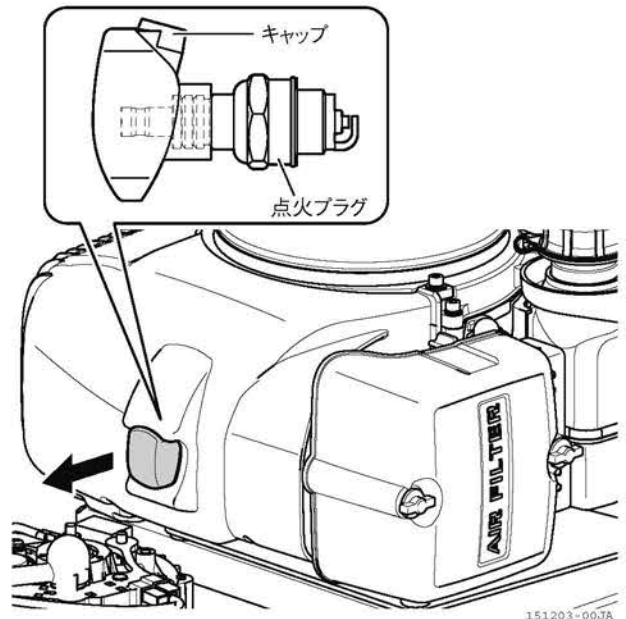


図 4-39

2. 点火プラグをエンジンから外します。
3. 電極部にカーボンなどが堆積している場合は、ワイヤブラシなどで清掃します。
4. 点火プラグの電極部の焼け具合、損耗の程度を点検します。
中心電極や外側電極が焼けて丸くなっている場合は交換します。
5. 火花ギャップ(電極すき間)を 0.6 ~ 0.7 mm に調整します。(図 4-41)

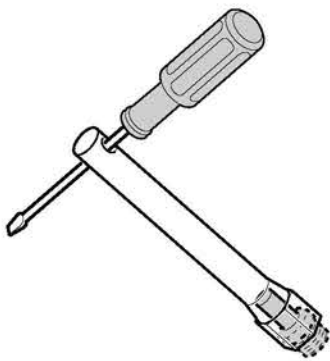
6. 点火プラグをエンジンに取り付け、キャップをはめ込みます。(図 4-40)

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締めこんでから、プラグレンチで締め付けてください。

【参考】

点火プラグを取り付けるときは、お手持ちのドライバーなどを使用して、プラグレンチを締め付けてください。(図 4-40)



073686-00X00

図 4-40 点火プラグの取り付け

掃除のしかた

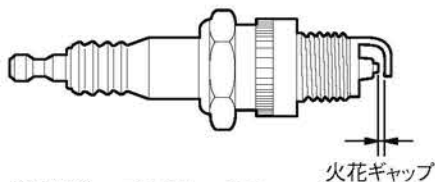
電極部をワイヤブラシで掃除します。

交換のしかた

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。点検のしかたの要領で点火プラグを外し、交換してください。

表 4-3 点火プラグ

標準点火プラグ	NGK製 (BPMR8Y)
---------	---------------



※火花ギャップ：0.6～0.7 mm

火花ギャップ

151037-00JA

図 4-41 火花ギャップ

【重要】

指定された点火プラグ以外を使用した場合、ラジコン操作ができないことがあります。

燃料ホース・電気配線の点検のしかた

▲ 注意

ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。

【守らないと】

燃料漏れによるやけどや火災が起こり、けがをするおそれがあります。

燃料を給油するたびに燃料ホースの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

また、電気配線が他の部品に接触して、被覆のはがれや傷がないこと、接続部のゆるみがないことを点検します。

燃料ホースや電気配線が傷んでいる場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAなどで修理してください。傷んでいなくても、2年ごとに交換するようにしてください。

燃料ホースの交換は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご依頼ください。



燃料ホース

※下から見た図です
154181-00JA

図 4-42

クローラの点検・調整・掃除のしかた

点検のしかた

1. クローラに摩耗・亀裂・破損がないことを確認します。
2. 機械を速く前進させたあと、ゆっくりと停止させます。(後進させてから停止させると、押し込み時のたわみ量が変わります。)
3. クローラの上に定規などを置き、クローラの上から 5 kgf 程度の力で押します。
4. クローラと定規などとの間が 10 ~ 15 mm になるか点検します。(図 4-43)

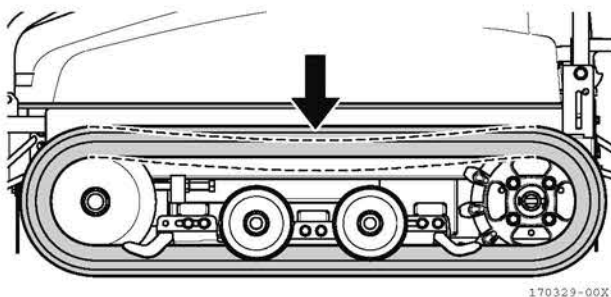


図 4-43

調整のしかた

1. クローラテンションボルトのロックナットをゆるめます。(図 4-44)

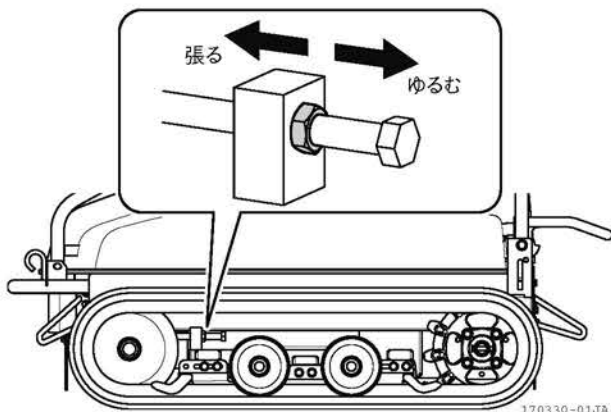


図 4-44

2. クローラを張り、規定の張りになったところでロックナットを締めます。
クローラのたわみにはバラつきがあるため、規定範囲内でもできる限り張り方向で調整します。
左右の張りが同じになるように調整します。

3. 再度機械を動かして、張りを確認します。

【重要】

- 左右の張りが異なる場合は直進性が悪くなる場合があります。
- クローラを摩耗、亀裂、破損などにより交換するときは、お買い上げいただいた特販店、または JA へご依頼ください。

■ クローラガイドの調整のしかた

アイドラーとクローラガイド前のすきまが 10 ~ 15 mm になるように調整します。

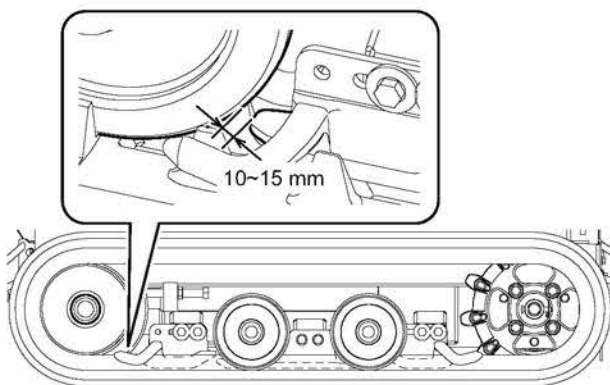


図 4-45 クローラガイド

掃除のしかた

巻付き防止棒 (からみません) に草などの巻付きがあれば、掃除してください。

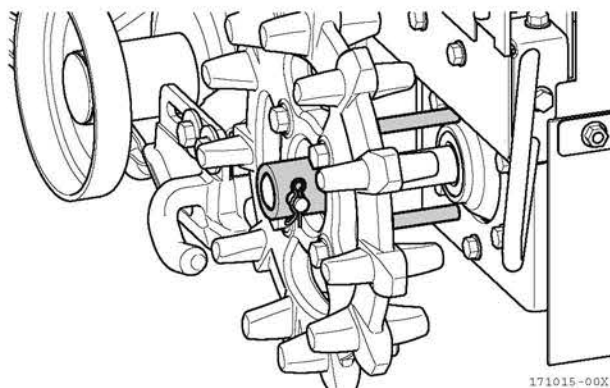


図 4-46 巻付き防止棒

バッテリーの点検・整備・充電・交換・接続のしかた

▲ 危険

- バッテリー液は希硫酸です。体や服に付けないようにしてください。
【守らないと】
失明したり、やけどによる死亡事故を引き起こしたりするおそれがあります。
- バッテリー液が付いたときは、直ちに大量の水で洗い流してください。
- バッテリー液が目に入ったときは、流水で洗い、医師の治療を受けてください。

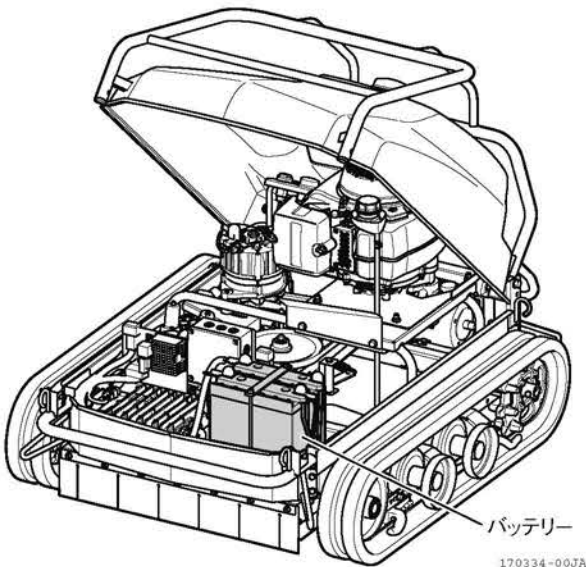


図 4-47

バッテリー液の補給のしかた

1. バッテリー液が LOW と HI の間にあることを確認します。
2. バッテリー液が少ないときは、LOW と HI の間になるように蒸留水を補給します。

■ バッテリー液について

- バッテリー液は適量で使用してください。
- バッテリー液が下限以下で使用すると、バッテリーの寿命が短くなります。
また、電極がバッテリー液から出て、充電時や使用時に火花が飛び、バッテリーが爆発する場合があります。
- バッテリー液が上限を超えると、液があふれて、機体を腐食させることがあります。

整備のしかた

▲ 危険

- バッテリーの充電中は火気厳禁です。
【守らないと】
充電中は水素と酸素が発生し、引火爆発による死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 急速充電はしないでください。
【守らないと】
バッテリーの内圧が上がり、破裂による死亡事故を引き起こすおそれがあります。

- 電圧が低くなっているときは補充電します。(1カ月に1回程度)
- バッテリーの電圧が低くなり、エンジン始動できない場合は、バッテリーを補充電または交換します。

【重要】

- バッテリーを外す場合は、必ず本機の電源を「切」にしてください。電子機器が破損する場合があります。
- ブースターケーブルやジャンプスターターを使用時の始動はしないでください。電子機器が破損する場合があります。

【参考】

バッテリーを外す場合は、マイナス (-) 端子から外してください。取り付けるときはプラス (+) 端子から取り付けてください。

充電のしかた

1. バッテリーをラジコン草刈機から外します。

【重要】

機械に取り付けたままの充電はしないでください。
機械が破損する場合があります。

2. バッテリーのプラス (+) 端子を充電器のプラス (+) に、バッテリーのマイナス (-) 端子を充電器のマイナス (-) につなぎます。
3. 1.6 A 程度で充電します。

【参考】

- 充電時間は下表を参照してください。

表 4-4 バッテリー充電時間

回路電圧 (V)	充電時間の目安
12.4	4時間以内
12.3	6時間以内
12.2	8時間以内
12.1	10時間以内
12.0	12時間以内
11.8	15~20時間以内

- 充電器によって、充電時間は変化します。充電器の取説も確認してください。

4. バッテリーをラジコン草刈機に取り付けます。

【参考】

充電時に液口栓は外しません。発生したガスは排気口から出ます。外すと転倒時にバッテリー液がこぼれます。

交換のしかた

表 4-5 バッテリーのコード No.

コードNo.	1A1025-83050
--------	--------------

1. マイナス (-) 端子を外し、プラス (+) 端子を外します。(図 4-48)

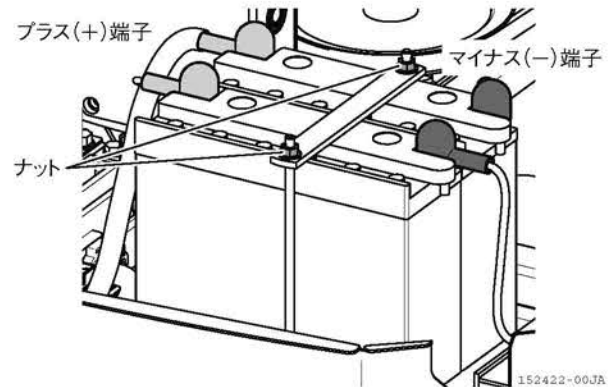


図 4-48

2. バッテリー押さえのナット (2 個) を外します。(図 4-48)
3. バッテリーを交換します。

接続のしかた

【重要】

接続する端子を間違えると、ショートして、ヒューズが切れます。接続する前に端子を確認してから、接続してください。

1. バッテリー (A) のプラス (+) 端子 (2) とバッテリー (B) のマイナス (-) 端子 (3) を接続します。(図 4-49)

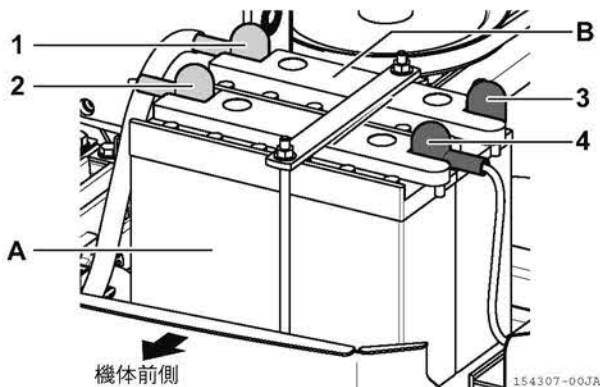


図 4-49

2. バッテリー (B) のプラス (+) 端子 (1) に本機のプラス (+) ハーネスを接続します。(図 4-49)
3. バッテリー (A) のマイナス (-) 端子 (4) に本機のマイナス (-) ハーネス (アース線) を接続します。(図 4-49)

ヒューズ・スローブローヒューズの交換のしかた

⚠ 警告

ヒューズおよびスローブローヒューズは、必ず規定アンペアのものを使用してください。

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ヒューズおよびスローブローヒューズが切れると、電装関係が作動しなくなるだけでなく、バッテリーに充電されなくなりますので、切れた場合は、つぎの要領で交換してください。また、交換してもすぐに切れるような場合は、どこかでショートしている可能性があります。お買い上げいただいた特販店、または JA にご相談ください。

ヒューズの交換のしかた (YW500RC,A)

1. ボンネットを開きます。(60 ページ参照)
2. ヒューズケースのふたを開けて、ヒューズを引き抜きます。(図 4-50)

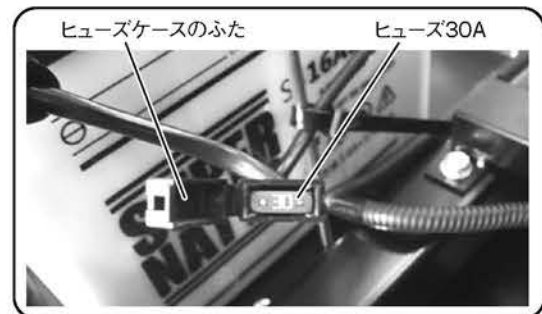


図 4-50

3. ヒューズを交換し、元通りに取り付けます。
4. ボンネットを閉じます。

【重要】

ヒューズを交換してもすぐに切れる場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。

スローブローヒューズについて

スローブローヒューズは、本機電装回路の保護のための大容量ヒューズにしています。

(図 4-51、図 4-52)

〈YW500RC,A〉

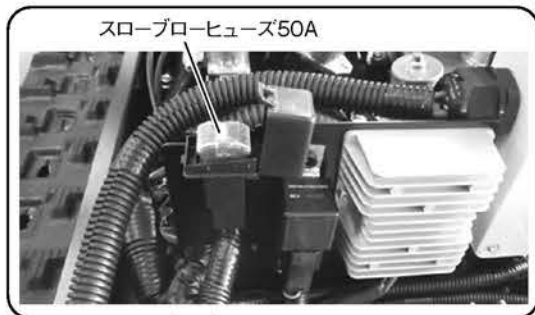


図 4-51

〈YW500RC,AE〉

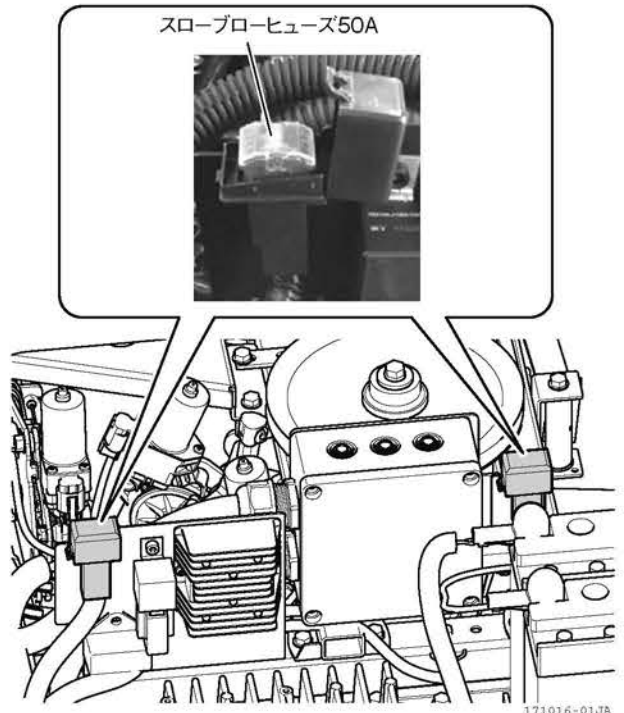


図 4-52

【参考】

スローブローヒューズはヒューズの種類です。万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したらお買い上げいただいた特販店、または JA で点検を受けてください。

スローブローヒューズの交換のしかた

1. ボンネットを開きます。(60 ページ参照)
2. ヒューズケースのふたを開けて、スローブローヒューズを引き抜きます。
(図 4-53、図 4-54)

〈YW500RC,A〉

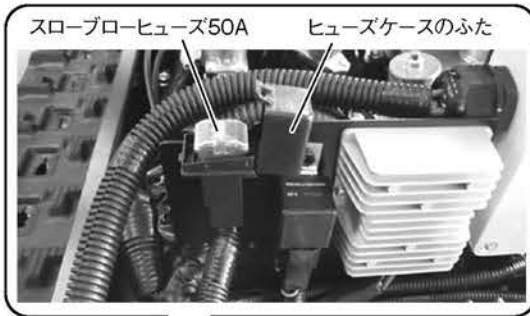


図 4-53

〈YW500RC,AE〉

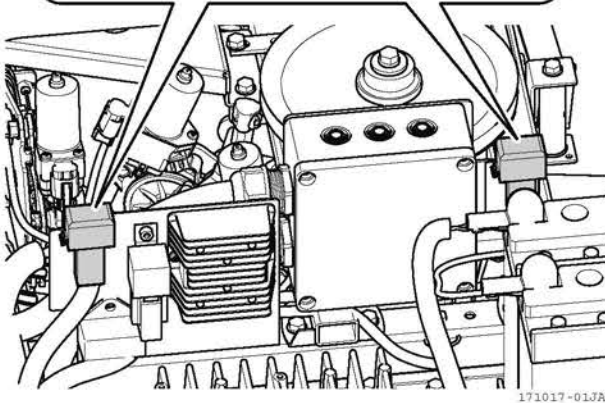
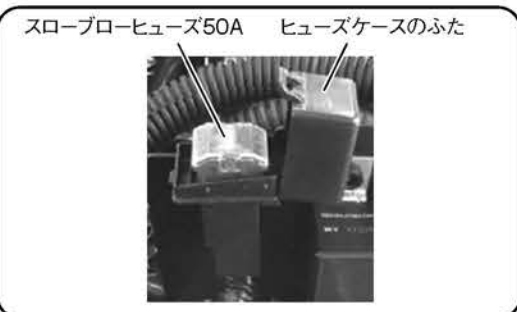


図 4-54

3. スローブローヒューズを交換し、元通りに取り付けます。
4. ボンネットを閉じます。

送信機の充電・バッテリーの交換のしかた

充電のしかた

1. 送信機の電源が「切」であることを確認します。
(「入」になっていると充電できません)
2. 充電器のプラグを送信機の充電コネクタに接続します。(図 4-55)



図 4-55

3. 充電器を家庭用電源 (100 V) に接続します。
充電器の右側の赤ランプが点灯したら、充電が開始します。
4. 所定の時間 (約 15 時間) 経過後、充電器を家庭用電源から抜きます。

【重要】

- 所定の時間以上充電すると、バッテリーが破損して使えなくなる場合があります。
- 充電時は、直射日光が当たる場所や密閉された空間など、高温になる環境を避け、周辺温度が 40 °C 以下になるような環境で充電してください。
高温になる環境で充電するとバッテリーの劣化が早くなります。

【参考】

充電は自動で終了しません。

交換のしかた

1. 送信機の電源が「切」であることを確認します。
2. 送信機の底面のふたを外します。
3. コネクターを抜きます。
4. ロック爪を押して、バッテリーを取り出します。(図 4-56)

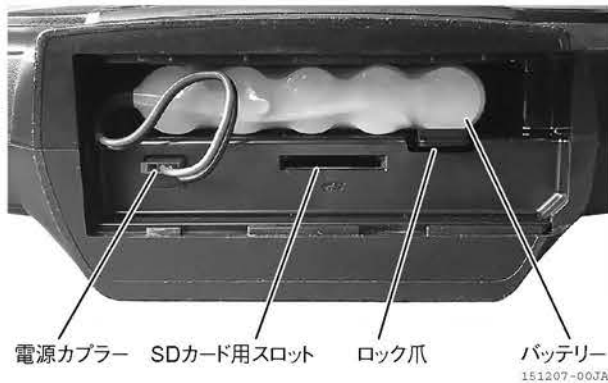


図 4-56

5. 新しいバッテリーを取り付け、コネクターを差し込みます。
6. 送信機の底面のふたを取り付けます。

【重要】

送信機の電源が「入」のままバッテリーを外すと、送信機が破損するおそれがあります。

【参考】

- ラジコン草刈機で作業を開始する前に、必ず送信機の充電を行ってください。
充電が不十分な状態で作業を始めると、作業中に送信機の電源が入らなくなり、ほ場で本機が停止するおそれがあります。
- 送信機のバッテリー電圧が一定以上低下すると、送信機からアラーム音がなります。
その場合、作業を中断して、本機を安全な場所に移動させたあと、送信機の充電をするか、充電済のバッテリーと交換してください。

表 4-6 バッテリーのコード No.

コードNo.	1A1025-83610
--------	--------------

- 送信機に使用されているニッケル水素 (Ni-MH) バッテリーは、回収・再資源化が義務付けられています。
家庭ごみとして処理せずにお買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
(88 ページ参照)

不調診断のしかた

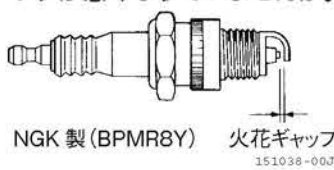
■ 本機の電源が入らない場合

表 4-7

確認箇所	処置	参照ページ
バッテリーは接続されていますか。	バッテリーを接続してください。	73
バッテリーは充電されていますか。	バッテリーを充電してください。	72
スローブローヒューズ50Aが切れていませんか。	スローブローヒューズ50Aが切れている場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAに修理を依頼してください。	74
ヒューズ30Aが切れていませんか。	ヒューズ30Aを交換してください。	73
上記確認をしても電源が入らない場合	お買い上げいただいた特販店、またはJAにご連絡ください。	—

■ エンジンが始動しない場合

表 4-8

確認箇所	処置	参照ページ
本機および送信機の電源が「入」になっていますか。	本機および送信機の電源を「入」にしてから、再度操作してください。	34
送信機のエンジンスイッチが「始動」位置になっていますか。	送信機の電源を入れて、エンジンスイッチを「始動」位置にしてください。	34
本機側の緊急停止スイッチが「運転」位置になっていますか。	本機側の緊急停止スイッチを「運転」位置にしてください。	30
燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を補給してください。	56
プライミングポンプで燃料をキャブレターまで送りましたか。	プライミングポンプで燃料をキャブレターまで送ってください。	31
エンジンの始動手順が間違っていないですか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	42
劣化した混合ガソリンを使用していませんか。	燃料を抜き、購入して1カ月以内のガソリンを使用した混合ガソリンを補給してください。	56
点火プラグが悪くなっていませんか。	点火プラグを外して、火であぶるか、乾いた布でよく乾燥させてください。	68
 NGK 製 (BPMR8Y) 火花ギャップ 151038-00JA	点火プラグの火花ギャップを調整してください。または、新しい点火プラグと交換してください。それでも始動しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	69
各リード線が外れていませんか。	コネクター、リード線の接続を確認してください。	—

■ セルモーターが回転しない場合 (YW500RC,AE)

表 4-9

確認箇所	処置	参照ページ
刈取りクラッチスイッチが「切」になっていますか。	刈取りクラッチスイッチを「切」位置にしてください。	36
バッテリー電圧が低下していませんか。	リコイルスターターでエンジン始動し、バッテリーを充電してください。	43
	充電してもセルモーターが回らない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	72
スローブローヒューズ50Aが切れていませんか。	お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	—
6回以上連続でセル始動に失敗していませんか。	冷却のため1分間セルモーターが回りません。1分以上経過してから再度始動してください。	44

■ 各部に振動が多い場合

表 4-10

確認箇所	処置	参照ページ
エンジンが揺れるのではありませんか。	エンジン取付ボルトを強く、締め直してください。	65
ロータリーカッターのナイフが破損していませんか	ナイフを交換してください。	66
ロータリーカッターの軸にツルやビニールなどが巻き付いていませんか。	巻き付いているツルやビニールなどを除去してください。	—

■ エンジンの力がない場合

表 4-11

確認箇所	処置	参照ページ
チョークレバーを「開」位置に戻していますか。	チョークレバーを「開」位置に戻してください。	31
ロータリーカッターの軸にツルやビニールなどの異物が絡んでいませんか。	ロータリーカッターの軸に絡んでいる異物を取り除いてください。	—
ナイフの脱落や欠損がありませんか。	ナイフを交換してください。	66
エアクリーナーにごみが詰まっていますか。	エレメントを外して、きれいに掃除するか交換してください。	58
適正な混合ガソリンを使用していますか。 (レギュラーガソリンや混合比が不適當な燃料などを使用していませんか。)	適正な混合ガソリンを使用してください。	56
エンジンの回転は上がりますか。	送信機のエンジンスイッチを「運転」にしてもエンジン回転が変化しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	—
	暖機運転をしていない場合は暖機運転をしてください。	43
ロータリーカッターのカバー内に土などが堆積していませんか。	土などを取り除いてください。	—
燃料フィルターが詰まっていますか。	燃料フィルターを掃除してください。	59
プライミングポンプの押す部分が戻らない。 (フィルターまたはキャプレーターが詰まっている)	燃料フィルターを掃除してください。燃料フィルターを掃除しても押す部分が戻らない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	59

■ ロータリーカッターが回転しない場合

表 4-12

確認箇所	処置	参照ページ
エンジン回転が低いままではありませんか。	送信機のエンジンスイッチを「運転」にしてエンジン回転を上げてください。(回転が上がらないとエンジクラッチが繋がりません。)	49
刈取りクラッチスイッチが「切」位置になっていませんか。	刈取りクラッチスイッチを「入」位置にしてください。	36
刈取りクラッチベルトは正常ですか。(ベルトが伸びてスリップなどしていませんか。)	刈取りクラッチベルトの破損や張り具合を確認してください。	61
ロータリーカッターの軸にツルやビニールなどの異物が絡んでいませんか。	ロータリーカッターの軸に絡んでいる異物を取り除いてください。	—

■ 刈高さ調整が動かない場合

表 4-13

確認箇所	処置	参照ページ
刈高さ調整リンクが動いていますか。	動かない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡ください。	—
ロータリーカッター部を上下させる軸に土が付着していませんか。	軸を掃除して土などを除去してください。	—
サーボモーターは動いていますか。	サーボモーターが動いていない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡ください。	—

■ 走行しない場合

表 4-14

確認箇所	処置	参照ページ
本機の電源が「入」になっていますか。	本機の電源を「入」にしてから再度操作してください。	30
送信機の電源が「入」になっていますか。	送信機の電源を「入」にしてから再度操作してください。	34
緊急停止スイッチが「運転」になっていますか。	緊急停止スイッチを「運転」位置にしてください。	30

■ 移動時に走行速度が遅い（途中から遅くなる）場合

表 4-15

確認箇所	処置	参照ページ
本機のバッテリー電圧が下がっていませんか（23 V以下）。	エンジンを始動してエンジンスイッチを「運転」位置にしてください。	34

■ 移動時に走行速度が遅い場合

表 4-16

確認箇所	処置	参照ページ
最高速度設定ダイヤルが「速」になっていますか。	最高速度設定ダイヤルを「速」位置にしてください。	36

■ 平地で直進しない（直進位置で旋回する）場合

表 4-17

確認箇所	処置	参照ページ
直進調整ダイヤルが回っていませんか。	直進調整ダイヤルを直進する位置に調整してください。	37
クローラの張りが左右で偏っていませんか。	クローラの張りを左右で均一にしてください。	70
デジタルトリムがずれていませんか。	デジタルトリムを調整してください。	38

■ 傾斜地で曲がる場合

表 4-18

確認箇所	処置	参照ページ
直進調整ダイヤルを調整していますか。	直進調整ダイヤルを調整して機械の旋回の補正をしてください。	37

■ 作業中速度が遅くなる場合

表 4-19

確認箇所	処置	参照ページ
草のボリュームが多いなど、刈取り負荷がかかっていませんか。	作業中にエンジンへの負荷が大きくなると快速制御機能がはたらいて走行速度が遅くなります。負荷が小さくなれば速度も復帰します。	—
クラッチワイヤがゆるくなっていませんか。	刈取クラッチワイヤがゆるいと、ベルトがスリップにより刈刃の回転が下がり、快速制御がはたらき作業速度が低下します。クラッチワイヤを適正に張ってください。	61
アクセルワイヤがゆるくなっていませんか。	アクセルワイヤがゆるいと、エンジン回転が低下して快速制御がはたらき作業速度が低下します。アクセルワイヤを適正に張ってください。	64

4

■ 作業中に機械が停止する場合

表 4-20

確認箇所	処置	参照ページ
警告ランプが点滅していませんか。	以下の場合は機械が一時停止します。操作ステックをいったん放して再操作してください。 一時停止発生条件 ・ 左右傾斜が傾斜警告スイッチで設定した角度を超えた場合 ・ 前後傾斜角が30度を超えた場合 ・ 走行モーターに過負荷がかかった場合	32

■ クローラが片側しか回らない場合

表 4-21

確認箇所	処置	参照ページ
クローラ駆動スプロケットのピンがささっていますか。	クローラ駆動スプロケットのピンをいれてください。	—
	ピンが入っているのにクローラが駆動しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡ください。	—

■ 送信機を操作しても本機が反応しない場合

表 4-22

確認箇所	処置	参照ページ
送信機のバッテリーが消耗していませんか。	送信機のバッテリーを充電するか、充電できているものと入れ替えてください。 上記の処置をしても本機が反応しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡ください。	75

エラーコード一覧表

エラーが発生した場合は、モニター（機体情報）画面の 2/2 の右下にエラーコードが表示されます。

(39 ページ参照)

複数のエラーが発生したときは、順番に表示を繰り返します。

表 4-23

送信機		本機		発生条件・内容	処置方法
エラーコード (表示内容)	内容表示	警告ブザー、 振動	警告ランプ、 警告ブザー※		
0 (正常)	正常、 通信点灯	-	0.5秒On, 3秒Off	送信機の電源「入」：送信機 からの電波が届いている場 合。	正常です。
- (通信不良)	未表示、 通信消灯		0.5秒On, 1秒Off	本機の電源「切」：本機（受 信機）からの電波が届いて いない場合。 ※一度「0：正常」になった あとは、アンテナマーク で確認。 アンテナマークのときの み  は、電波が届いてい ない。	本機の電源を「入」にする。 バッテリーを充電する。 送信機と本機の距離を近くす る。
1 (角度異常)	前後カド： 30°以上	0.5秒 OnOff	0.5秒 OnOff	前後の角度が30度を越えた 場合。	傾斜の少ない場所に移動する。 前後の機体角度の小さい体勢 にする。
	左右カド： 設定角度以上	On (45°以上 では振動も 追加)	1秒 OnOff	左右の角度が傾斜角警報設 定角度を越えた場合。	傾斜の少ない場所に移動する。
	カド： 60°以上	On	On連続	前後の角度が60度を越えた 場合。	本機の電源をいったん「切」 にして再度「入」にすると、 動かすことができる。
2 (電圧異常)	25 デンアツ： 33 V以上	-	0.5秒 OnOff	本機の電圧異常33 V以上。 オルタネーターの異常。	オルタネータを交換する。
	25 デンアツ： 23 V未満		0.5秒 OnOff2回	本機の電圧異常23 V未満。 バッテリー残量不足。	バッテリーの充電。 発電機駆動ベルトの確認・増し 張り。(バッテリー電圧が 23 V未満の場合は、バッテ リーを外して充電する)
3 (電流異常)	24 デンリュウ： 30 A以上	0.3秒 OnOff	0.5秒 OnOff3回	左走行モーター電流が30 A 以上。	減速するか、停止してモー ターを休ませる。
	27 デンリュウ： 30 A以上			右走行モーター電流が30 A 以上。	減速するか、停止してモー ターを休ませる。
5 (温度異常)	16 オンド#1： 80°C以上			コントローラーの筐体温度 が80°C以上。	本機を停止させて、コント ローラーの温度を下げる。

送信機		本機		発生条件・内容	処置方法
エラーコード (表示内容)	内容表示	警告ブザー、 振動	警告ランプ、 警告ブザー※		
4 (回転異常)	4 RPM : 1000以下	-	0.5秒 OnOff4回	ロータリーカッターの回転 が1000 rpm以下。(エンジ ンスイッチ「運転」、刈取り クラッチスイッチ「入」)	カッター駆動ベルトの確認、 カッター軸への巻き付き確認、 ナイフ確認(摩耗・破損等な ど)。
6 (アクセル モータ異常)	-			アクセルモーターの不具合 (断線・ショート)。 モーターが駆動して2秒以内 にリミットスイッチの信号 が入らない。	カプラー抜け、ハーネスの確認。 リミットスイッチの調整、交換。
7 (刈取クラッチ モータ異常)				刈取クラッチモーターの不 具合(断線・ショート)。 モーターが駆動して2秒以内 にリミットスイッチの信号 が入らない。	カプラー抜け、ハーネスの確認。 リミットスイッチの調整、交換。
8 (刈高さ モータ異常)				刈高さモーターの不具合 (断線・ショート)。 モーターが駆動して2秒以内 にリミットスイッチの信号 が入らない。	カプラー抜け、ハーネスの確認。 リミットスイッチの調整、交換。
9 (送受信機 異常)				送信機の電圧が低下。送受 信機の故障。	送信機の充電。電池交換。送 受信機修理。
10 (DCDC異常)				DCDCコンバータが故障。 DCDC電圧が12 V±1 V以 内にない。	DCDCコンバータを修理す る。
11 (非常停止)			On連続	緊急停止スイッチが「停止」 位置。	緊急停止スイッチを「運転」 位置にする。

※警告ランプと警告ブザーは同時に作動します。

保管するときは

⚠ 注意

- ラジコン草刈機を高いところに保管しないでください。また、ガードパイプやフックを利用してラジコン草刈機を吊り下げての保管もしないでください。落下するおそれのある保管方法は絶対にしないでください。
- 格納（保管）はラジコン草刈機が倒れたり動いたりしない、平たんで安定した場所に格納してください。
- エンジンが高温のときは、本体にカバーをかけないでください。エンジンが冷えたことを確認してからかけてください。

【守らないと】

火災の原因になります。

ラジコン草刈機は、直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい屋内で保管します。

雨水などがエアクリナーやキャブレター、電装品にかかると故障の原因になります。

長期保管するときは（1 カ月以上）

【重要】

- ラジコン草刈機を1 カ月以上使用しない場合は、必ず燃料タンク、キャブレター・燃料ホースの中の燃料を抜き取ってください。抜き取らないとエンジン不調の原因になります。
- 長期保管時はクローラの下に木を敷いてください。

保管のしかた

エンジンの手入れ

1. キャップを矢印の方向に手で引き抜きます。（図 5-1）

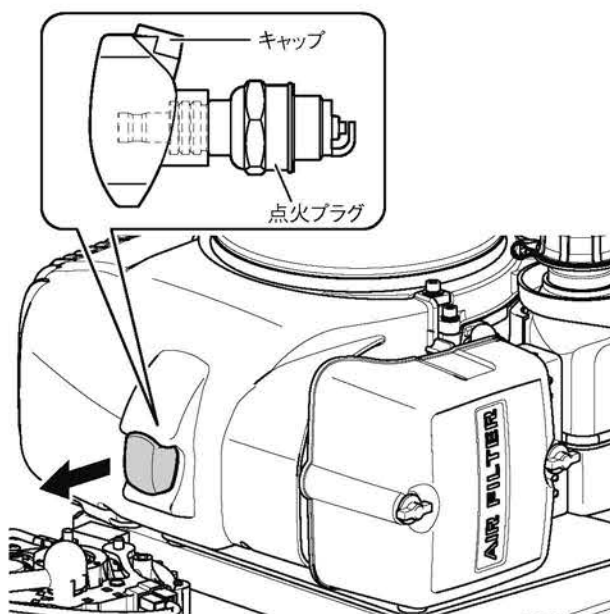


図 5-1 点火プラグ

2. 点火プラグをエンジンから外します。

【参考】

プラグレンチは、お手持ちのドライバーなどに合わせてご使用ください。(図 5-2)

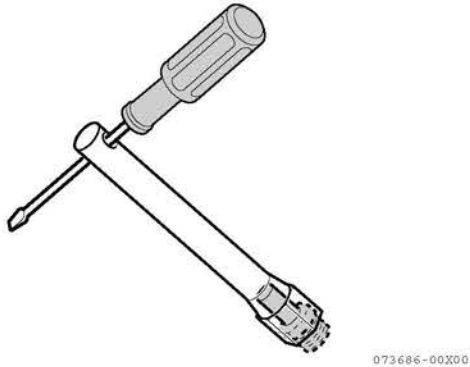


図 5-2 プラグレンチとドライバー

3. プラグの取り付けしていた穴から、2 サイクルエンジン用のエンジンオイルを約 2 ～ 3 cc 入れます。
4. 点火プラグを外すときの逆の手順で取り付けます。

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締めこんでから、プラグレンチで締め付けてください。

5. リコイルスターターを軽く引いて、重くなったところ（圧縮位置）で止めます。

燃料の抜き取り

燃料タンク・キャブレター・燃料ホースの中の燃料を抜き取ります。

作業方法は、57 ページの「燃料の抜きかた」を参照ください。

バッテリーの保管

バッテリーは1カ月に1度、補充電をしてください。

トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 危険

- トラックへの積み・降ろしは、アユミ板の上で進路変更することがないように、進路を定めて、低速で行ってください。
- 機械がアユミから落下しても、危険のない距離を保って操作してください。

アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

■ アユミ板の基準

アユミ板は基準に合った、十分な強度のあるものを使用してください。

- ・ 長さ：
車の荷台高さの4倍以上。
- ・ 幅：
積み・降ろしする機械のクローラ幅に合ったもの。
- ・ 強度：
積み・降ろしする機械の重量に十分耐えられるもの。
- ・ 表面：
滑らないように処理してあるもの。

トラックの準備

1. 平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所にトラックを停車します。
2. トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけます。
3. タイヤに車止めをします。
4. トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差ができないように、確実にかけます。

積みかた

1. 緊急停止スイッチを「運転」位置にします。
2. 本機と送信機の電源を「入」にします。
3. 積む機械は、アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めます。
4. 走行操作スティック（前後進）を操作して、低速（無理のない速度）で積み込みます。

【参考】

最高速度設定ダイヤルで速度を規制すると、より操作しやすくなります。

トラックに積み込んだら

1. 本機と送信機の電源を「切」にします。
2. ロープフックに十分強度のあるロープをかけて、機体を確実に固定します。(図 6-1)

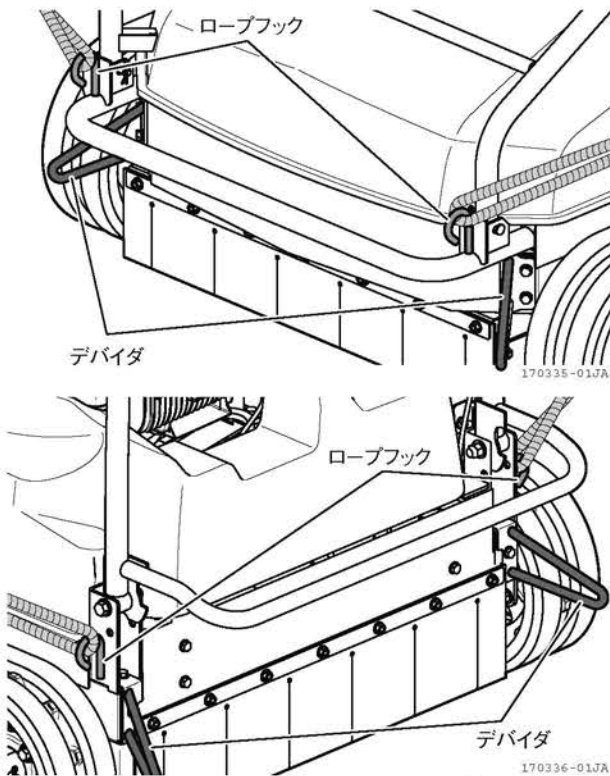


図 6-1 ロープフック、デバイダ

【重要】

- 輸送時は、移動に最低限必要な分以外は燃料を抜いてください。
- 雨天時はぬれないようにカバーをかけてください。故障の原因になります。
- デバイダにはロープをかけないでください。本機が破損する場合があります。

降ろしかた

1. 機体を固定しているロープを外します。
2. 本機と送信機の電源を「入」にします。
3. 積み込み時と同じように走行スティックを操作して、低速（無理のない速度）で降ろします。

【参考】

最高速度設定ダイヤルで速度を規制すると、より操作しやすくなります。

7章 仕様

主要諸元

表 7-1

名称		ヤンマー ラジコン草刈機	
販売型式名		YW500RC	
仕様		A	AE
機体寸法	全長 (mm)	1175	
	全幅 (mm)	870	
	全高 (mm)	630	685
機体質量 (kg)		165	170
エンジン	型式名	CE800U/03	CE800U/04
	始動方法	リコイルスターター式 (アシストスターター方式)	セルスターター式 リコイルスターター式併用 (アシストスターター方式)
	総排気量 (cc)	79.2	
	出力/回転速度 (kW{PS}/min ⁻¹)	2.8{3.9}/7000	
	使用燃料	潤滑油混合ガソリン(50:1 FC級オイル)	
	燃料タンク容量 (L)	1.8	
バッテリー	種類	鉛(12V×2)	
	型式名	YB16AL-A2(2個)	
	容量	16A-24V	
走行部	走行方式	2モーター2クローラ	
	走行駆動	550WDCモーター×2個	
	舵取り方法	2モーター(電動)	
	変速段数	無段階	
	作業速度 (m/s)	最大0.6	
	対応傾斜 (度)	45(左右)、30(前後)	
	平均接地圧 (kPa)	11	
切断部	刈取駆動	エンジン式	
	刈刃形式	ロータリー式 1軸×4枚(フリーナイフ)	
	刈幅 (mm)	500	
	作業後草丈 (mm)	30~80(刈高さは低・中・高の3段階)	
ラジコン	周波数方式	2.4 GHz	
	操作可能距離 (m)	~65(信号到達可能範囲~175)※1	

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※1:必ず機体を確認できる距離から操作してください。

廃棄をするときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このラジコン草刈機に使用されている、燃料・オイル・フィルター・ベルト・ホースなどは、正しく処分してください。

ラジコン草刈機の廃棄

【重要】

ラジコン草刈機を廃棄するときは、お買い上げいただいた特販店、または JA、もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。法律に違反する行為は絶対にしないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせず、お買い上げいただいた特販店、または JA へお渡しください。資源としてリサイクルされます。

ニッケル水素 (Ni-MH) バッテリーの処理

ニッケル水素 (Ni-MH) バッテリーは回収、再資源化が義務付けられています。

バッテリーパックを家庭ごみとして処分しないでください。

バッテリーの処分については、お買い上げいただいた特販店、または JA までご相談ください。

バッテリーの処理

環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

9章 サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要になるものです。お読みになったあとは、大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

ラジコン草刈機の調子が悪いときは、77 ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでもなお不具合があるときは、つぎの「ご連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ・ 販売型式名と製造番号 (図 9-2)
- ・ エンジンの場合は、エンジン番号 (図 9-1)
- ・ ご使用状況は？
(車速やどんな作業をしていたときに)
- ・ どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用后)
- ・ 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお伝えください。

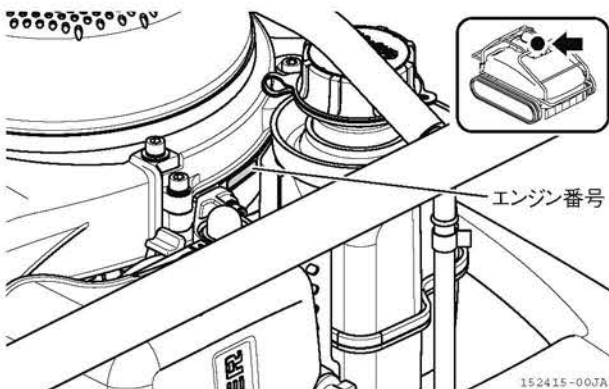


図 9-1 エンジン番号

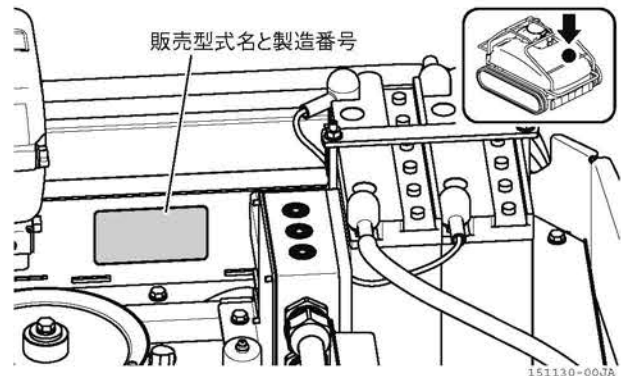


図 9-2 販売型式名と製造番号

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、厳しい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルをご指定ください。



図 9-3 純正部品・純正オイル

改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

英数字	
LCD 画面	38
S.I/F コネクター	40
あ	
アワーメーター	30
アンテナ	33
い	
イヤホンジャック	40
え	
エアクリナー	32, 58
エレメント	58
エンジンスイッチ	34
エンジン番号	1
お	
応答性切替スイッチ	37
か	
画面切替ボタン (左)	37
画面切替ボタン (右)	37
刈高さスイッチ	36
刈取りクラッチスイッチ	36
き	
機体銘板	1
緊急走行レバー (旋回)	32
緊急走行レバー (前後進)	32
緊急停止スイッチ	30
け	
警告ブザー	32
警告ランプ	32
さ	
最高速度設定ダイヤル	36
左右傾斜角警報設定スイッチ	35
し	
充電コネクター	40
す	
ストラップ用フック	40
スライドレバー (RS/LS)	40
せ	
セルスイッチ	34
そ	
走行操作スティック (旋回)	35
走行操作スティック (前後進)	35
送信機	33
た	
タッチセンサー	38
ち	
チョークレバー	31
直進調整ダイヤル	37

て	
デジタルトリム	38
点火プラグ	68
電源スイッチ	30, 34
と	
トレーナー機能コネクター	40
な	
ナイフ	66
ね	
燃料キャップ	56
ふ	
プライミングポンプ	31
へ	
ペーパーエレメント	58
り	
リコイルスターター	31

11章 部品リスト (部品早見表)

主要消耗部品

表 11-1

品名	コードNo.	備考
作業クラッチベルト	1A1025-13360	SA35 コグベルトHP5
発電用ベルト	1A1025-83360	SA30 REDS II
本機バッテリー	1A1025-83050	
送信機バッテリー	1A1025-83610	フタバ品番：HT5F1800B (ニッケル水素バッテリー)
アクセルワイヤ	1A1025-72700	
ブレーキワイヤ	1A1025-72710	
クラッチワイヤ	1A1025-72720	
点火プラグ	1A0124-00700	NGK製BPMR8Y
ナイフ	1A1025-43110	1個のコードNo.
ナイフ取付ボルト	1A1025-43120	
ナイフ取付ナット (ロック8)	1A1025-43130	
ナイフ取付座金	1A1025-43140	
ブレーキシュー	1A1015-13751	
エンジン防振ゴム	1A1025-61020	
フロントシート	1A1025-44200	
リヤシート	1A1025-44220	
サイドシート	1A1025-44360	
刈刃軸オイルシール	24421-204208	
遠心クラッチ	1A0124-00100	エンジン側の部品
ヒューズ30A	1E8665-83190	
スローブローヒューズ50A	1E8720-83120	
エアクリーナーペーパーエレメント	1A0124-00220	エンジン側の部品
エアクリーナーエレメント (スポンジ)	1A0124-00210	エンジン側の部品
燃料フィルター	1A0124-00030	エンジン側の部品
燃料ホース	1A0124-00350	エンジン側の部品

オプション部品

表 11-2

品名	コードNo.	備考
ブレードCMP (YW-RC)	7A1025-43111	ナイフ4枚のセット (ボルト類込み)

12章 用語解説

表 12-1

用語	解説	参照ページ
送信機	ラジコンで本機を遠隔操作するための操作装置です。	33
快速制御	作業中、エンジン負荷が大きくなった場合に、自動で車速を減速して負荷を低減する制御です。	50
セーフティー制御	ロータリーカッターの回転が一定以下になると、エンジン回転をアイドルリングにして、エンジンクラッチや刈取ベルトの破損を防止します。	51
プライミングポンプ	エンジン始動時に、最初に燃料タンクからキャブレターまで燃料を送る装置です。	31

お問い合わせ先

お住まいの地域の販売会社へお問い合わせください。

ヤンマーアグリジャパン株式会社

本社

〒530-8321 大阪市北区鶴野町1番地9号
梅田ゲートタワー

TEL (06)6376-6345

北海道支社

〒067-0051 北海道江別市工栄町10番地6

TEL (011)381-2300

東北支社

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8番地1
斎喜センタービル 1F

TEL (022)288-8451

関東甲信越支社

〒300-1161 茨城県稲敷郡阿見町よしわら1丁目19番地1

TEL (029)844-9007

中部近畿支社

〒524-0041 滋賀県守山市勝部2丁目3番地9号

TEL (077)582-9300

中四国支社

〒710-0024 岡山県倉敷市亀山622番地

TEL (086)428-5151

九州支社

〒833-0001 福岡県筑後市大字一条535番地2

TEL (0942)53-0333

ヤンマー沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番地12号

TEL (098)898-3111

ヤンマーアグリ株式会社

〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428番地

お客様相談室
TEL (06)7636-9298

2021年7月1日現在

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたを
すると、事故を引き起こすおそれがあります。お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

ヤンマーアグリ株式会社

yanmar.com

0A211-JA0692
2025.09-2
Japanese